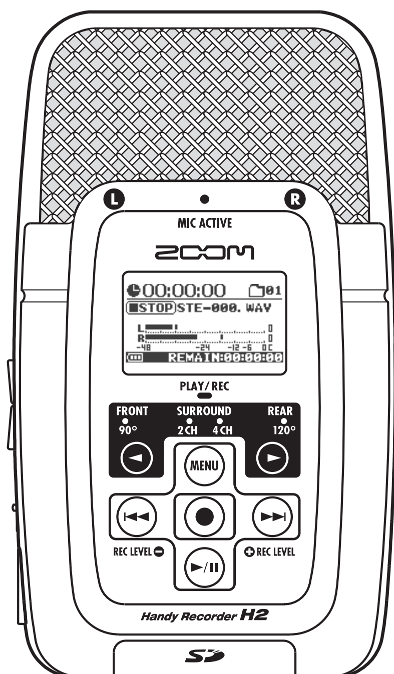
日本語

Handy Recorder
H2

オペレーションマニュアル



安全上のご注意／使用上のご注意

安全上のご注意

この取扱説明書では、誤った取り扱いによる事故を未然に防ぐための注意事項を、マークを付けて表示しています。マークの意味は次の通りです。


警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。


注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性、または物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

本製品を安全にご使用いただくために、次の事項にご注意ください。

電源について


警告 本製品は、消費電流が大きいため、ACアダプターのご使用をお薦めしますが、電池でお使いになる場合は、アルカリ電池をご使用ください。

ACアダプターによる駆動

- ACアダプターは、必ずDC9V センターマイナス300mA（ズーム AD-0006）をご使用ください。指定外の ACアダプターをお使いになりますと、故障や誤動作の原因となり危険です。
- ACアダプターの定格入力AC電圧と接続するコンセントの AC電圧は必ず一致させてください。
- ACアダプターをコンセントから抜く時は、必ずACアダプター本体を持って行ってください。
- 長期間ご使用にならない場合や雷が鳴っている場合は、ACアダプターをコンセントから抜いてください。

乾電池による駆動

- 市販の1.5V単三乾電池×2 をお使いください。
- H2は充電機能を持っていません。乾電池の注意表示をよく見てご使用ください。
- 長期間ご使用にならない場合は、乾電池をH2から取り出してください。
- 万一、乾電池の液もれが発生した場合は、電池ケース内や電池端子に付いた液をよく拭き取ってください。
- ご使用の際は、必ず電池カバーを閉めてください。

使用環境について


警告 H2を次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでお避けください。

- 温度が極端に高くなるところや低くなるところ
- 暖房器具など熱源の近く
- 湿度が極端に高いところや、水滴のかかるところ
- 砂やほこりの多いところ
- 振動の多いところ

取り扱いについて


警告

- H2の上に、花瓶など液体の入ったものを置かないでください。感電などの原因となることがあります。
- H2の上に、ロウソクなど火気のあるものを置かないでください。火災の原因となることがあります。


注意

- H2は精密機器ですので、スイッチ類には無理な力を加えないようにしてください。必要以上に力を加えたり、落としたりぶつけるなどの衝撃は故障の原因となります。
- H2に異物（硬貨や針金など）または液体（水、ジュースやアルコールなど）を入れないようにご注意ください。

接続ケーブルと入出力ジャックについて


注意 ケーブルを接続する際は、各機器の電源スイッチを必ずオフにしてから行なってください。本製品を移動するときは、必ずすべての接続ケーブルとACアダプターを抜いてから行なってください。

改造について


警告 ケースを開けたり、改造を加えることは、故障の原因となりますので絶対におやめください。改造が原因で故障が発生しても当社では責任を負いかねますのでご了承ください。

音量について


注意 H2を大音量で長時間使用しないでください。難聴の原因となることがあります。

使用上のご注意

他の電気機器への影響について

H2は、安全性を考慮して本体からの電波放出および外部からの電波干渉を極力抑えております。しかし、電波干渉を非常に受けやすい機器や極端に強い電波を放出する機器の周囲に設置すると影響が出る場合があります。そのような場合は、H2と影響する機器とを十分に距離を置いて設置してください。

デジタル制御の電子機器では、H2も含めて、電波障害による誤動作やデータの破損、消失など思わぬ事故が発生しかねません。ご注意ください。

お手入れについて

パネルが汚れたときは、柔らかい布で乾拭きしてください。それでも汚れが落ちない場合は、湿らせた布をよくしぼって拭いてください。クレンザー、ワックスおよびアルコール、ベンジン、シンナーなどの溶剤は絶対に使用しないでください。

故障について

故障したり異常が発生した場合は、すぐにACアダプターを抜いて電源を切り、他の接続ケーブル類もはずしてください。

「製品の型番」「製造番号」「故障、異常の具体的な症状」「お客様のお名前、ご住所、お電話番号」をお買い上げの販売店またはズームサービスまでご連絡ください。

このマニュアルは将来必要となることがありますので必ず参照しやすいところに保管してください。

目次



H2でできること

このたびは、ZOOM ハンディレコーダー H2（以下“H2”と呼びます）をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。H2 は、ステレオモード（2 チャンネル録音）と４チャンネルモード（4チャンネル録音）という２種類の動作モード（録音方式）に対応したSD カードレコーダーです。ここではH2の主要な機能を紹介します。

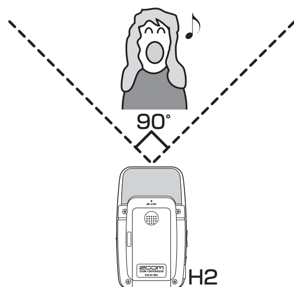
ステレオモードの録音（→P12、P18）

ステレオモードでは、内蔵マイク、外付けマイク、CDプレーヤーなど外部機器からの信号をステレオ(2チャンネル)録音できます。

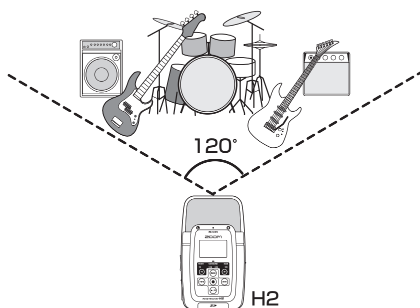
■ 内蔵マイクを使った録音

H2 のフロントパネルまたはリアパネル方向にある音源をステレオで録音できます。収音角度は、フロントン方向が90°、リア方向が 120°に固定されており、用途に応じて使い分けることができます。内蔵マイクの録音には、次のような使用例があります。

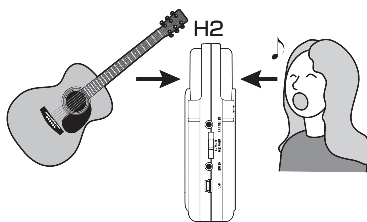
● ソロボーカルや単体楽器の録音
余計な音を拾わないように、収音角度が90°のフロント側から録音するといいでしょう。



● バンドのライブ録音やフィールドレコーディング
空気感も含めて録音できるように、収音角度が120°のリア側から録音するといいでしょう。



● 前後の音を同時に録音する
H2 を垂直に立てて、前後の音を 2 チャンネル録音することも可能です。例えば、2 人で向き合って対談するときや、カブりを避けるためにボーカルとギター奏者が向き合って録音するときなどに利用できます。



■ 外付けマイクを使った録音

[EXT MIC IN]端子に外付けマイクを接続し、外付けマイクを音源に向けます。モノラル仕様のマイクを接続した場合、Lch にのみ信号が録音されます。

■ 外部機器の録音

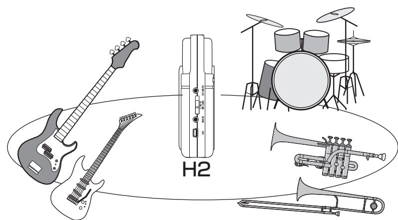
[LINE IN] 端子にCD プレーヤーなどの外部機器を接続し、外部機器からの信号をライン録音できます。

4チャンネルモードの録音（→P27）

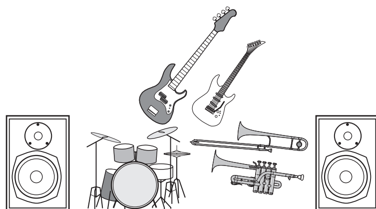
4チャンネルモードは、内蔵マイクを使ってフロント／リア両方向のステレオ信号を4チャンネルに録音するモードです。4チャンネルに録音した内容は、録音後に前後左右のバランスを調節してから、2 チャンネル(ステレオ)にミックスして再生できます。さらに、4チャンネルモードで録音したオーディオファイルをサラウンドエンコーダーの素材として利用すれば、家庭用のサラウンドシステムで再生できる5.1ch サラウンドオーディオを作成することも可能です。

■ バンドのリハーサルを録音する

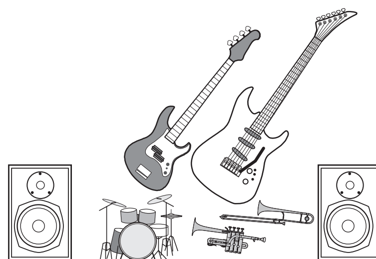
バンドのメンバーが向き合ってリハーサルを行う場合は、H2をバンドの中心に設置することで、フロント／リアの両方向からの音源を録音できます。



4 チャンネルに録音した内容は 2 チャンネル（ステレオ）にミックスして再生します。

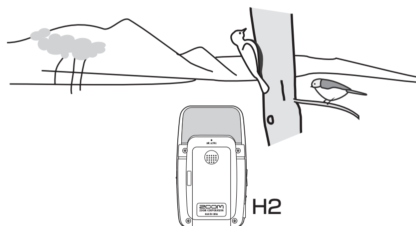


前後左右のバランスを後から変更することも可能です。



■ フィールドレコーディングに使用する

H2 を垂直に立て、フロントパネルを主要な音源に向けます。



メトロノーム機能（→P67）

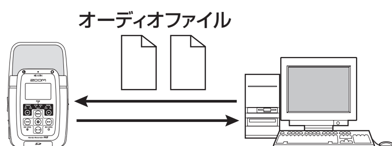
H2に内蔵されたメトロノーム機能を、録音中のガイドリズムとして利用できます。再生時にはメトロノーム音をオフにしたり、録音開始前に前カウントを鳴らすことも可能です。

チューナー機能（→P63）

H2に内蔵されたチューナー機能を利用すれば、楽器のチューニングが行えます。チューナーモード（チューニングの種類）として、すべての楽器に使用できるクロマチックチューナー以外に、ギターやベースの標準的なチューニング、ギターの変則チューニングも選択できます。

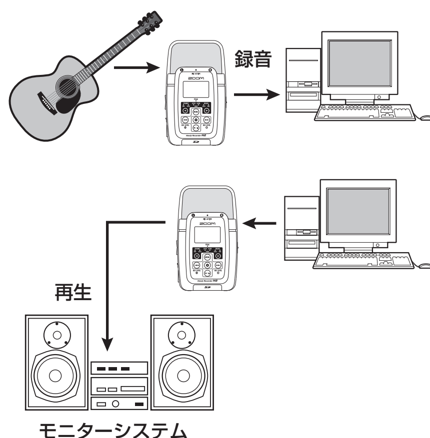
パソコンとH2の間でオーディオファイルをやり取りする（→P71）

H2で録音したオーディオファイルをパソコンにコピーして、波形編集ソフトで編集したり、オーディオCDに焼いたりできます。また、パソコンで編集したオーディオファイルをH2にコピーして再生することも可能です。



オーディオインターフェースとして利用する（→P73）

H2をパソコンのオーディオインターフェースとして利用し、H2の入力信号をパソコンに直接録音したり、パソコンの出力信号をH2から再生できます。



ファイルの操作（→P47）

SDカード上に保存されているオーディオファイルを、必要に応じて削除したり、2つに分割したり、各種情報を調べたりできます。

SDカードの操作（→P60）

H2内部のSDカードを初期化したり、録音可能な残り時間を調べたりできます。

各部の名称

フロントパネル

[MIC ACTIVE]インジケーター
※フロント方向のマイクに入力される信号が歪んだ場合は、点滅します。

ディスプレイ

マイクパターンインジケーター

[PLAY/REC]インジケーター

[◄](マイクパターン)キー

[►](マイクパターン)キー

MENUキー

[|◄◄](REW)キー

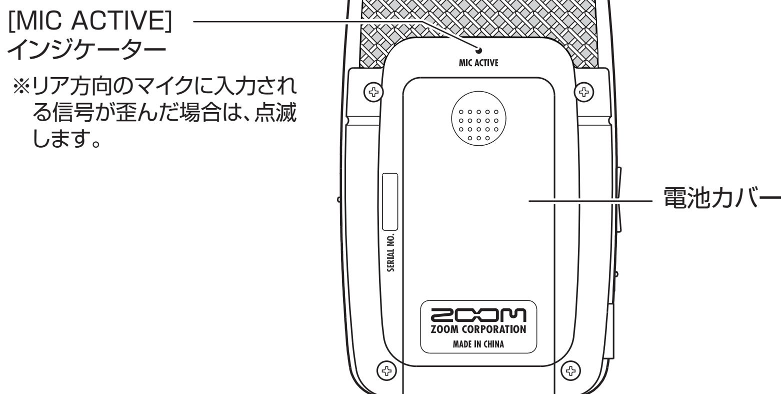
[►►|](FF)キー

[►/II](PLAY/PAUSE)キー

[●](REC)キー

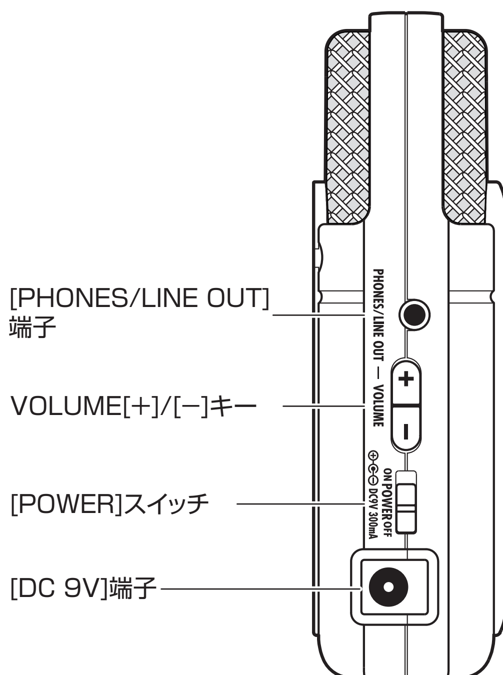
MIC ACTIVE
ZOOM
PLAY/REC
FRONT 90°
SURROUND 2CH 4CH
REAR 120°
MENU
REC LEVEL
Handy Recorder H2

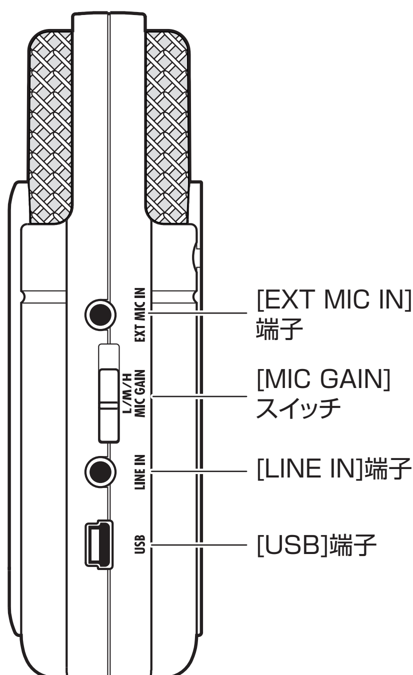
リアパネル



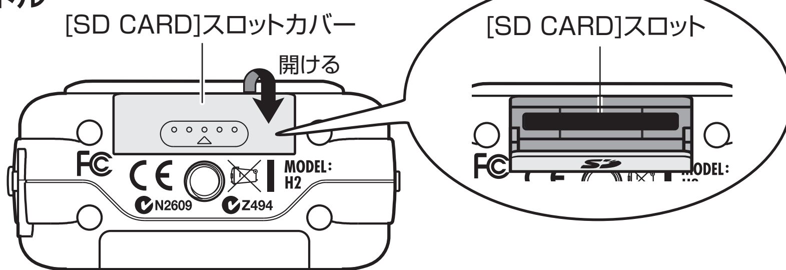
左サイドパネル

右サイドパネル





ボトムパネル



【内蔵時計の日付／時刻の設定について】

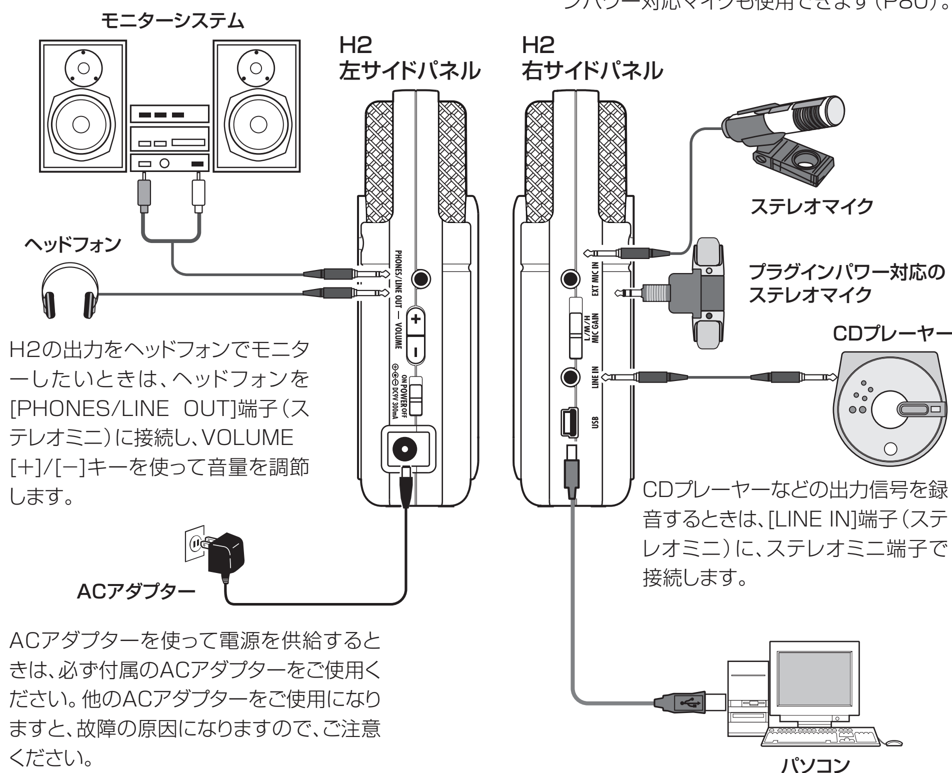
H2には、ファイルに録音日時を記録するための時計が内蔵されており、初めてH2の電源を入れたときに日付／時刻を設定するように求めるメッセージが表示されます。“日付／時刻を設定する”（→P78）の手順に従って、日時を入力してください。
この操作を省略すると、時計が規定値の日時（2007/01/01）に設定されますので、ご注意ください。

接続

下の図を参考に、マイクやオーディオ機器などを接続してください。

H2の出力をステレオのオーディオシステムでモニターしたいときは、[PHONES/LINE OUT]端子（ステレオミニ）にY字ケーブルを接続し、VOLUME[+]/[−]キーを使って音量を調節します。

外部マイクを使用するときは、[EXT MIC IN]端子（ステレオミニ）を使用します。プラグインパワー対応マイクも使用できます（P80）。



H2の出力をヘッドフォンでモニターしたいときは、ヘッドフォンを[PHONES/LINE OUT]端子（ステレオミニ）に接続し、VOLUME[+]/[−]キーを使って音量を調節します。

CDプレーヤーなどの出力信号を録音するときは、[LINE IN]端子（ステレオミニ）に、ステレオミニ端子で接続します。

ACアダプターを使って電源を供給するときは、必ず付属のACアダプターをご使用ください。他のACアダプターをご使用になりますと、故障の原因になりますので、ご注意ください。

H2の[USB]端子（miniUSB）をパソコンと接続すれば、H2をパソコンのオーディオインターフェースとして利用したり、H2内部のSDカードに録音されたオーディオファイルをパソコンに転送したりできます。

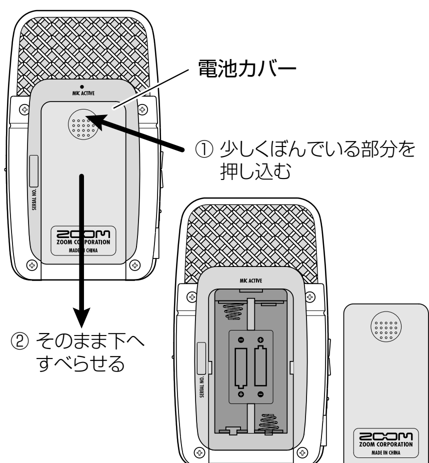
NOTE

- 内蔵マイクを利用したいときは、[EXT MIC IN]端子および[LINE IN]端子に接続された機器をすべて外しておいてください。これらの端子に機器が接続されている場合、内蔵マイクは無効となります。
- [LINE IN]端子と[EXT MIC IN]端子の両方に機器が接続されている場合は、[LINE IN]端子が優先されます。

電池で使う

H2を乾電池でご使用になるときは、次の手順に従って別売の乾電池を挿入してください。

1. 電池カバーを開けてください。



2. 電池ケースに単3乾電池×2本を装着してください。

HINT

アルカリ／オキシライド電池またはニッケル水素蓄電池をご使用ください。

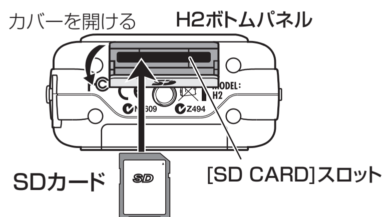
3. 電池カバーを閉めてください。

NOTE

- 本機を乾電池でご使用になる場合、乾電池が消耗するとディスプレイに"Low Battery!"と表示されます。この表示が出たらすぐに電源を切り、新しい乾電池に交換してください。
- 乾電池でご使用になる場合、電源が入った状態で電池カバーを開けることはおやめください。電源が強制的にオフになり、データが破損するおそれがあります。

SDカードについて

H2を使用するには、記録用メディアとしてSDカードが必要です。H2の電源を入れる前に、次の図のように[SD CARD]スロットにSDカードを挿入してください。



カードを挿入するときは、スロットの奥までしっかりと押し込んでください。カードを取り出すときは、一度カードをスロットの奥に軽く押してから、引き抜いてください。

NOTE

- 挿入方向やSDカードの表裏を間違えると、奥まで挿入できません。
- 電源を入れたままSDカードの抜き差しをすることは、絶対におやめください。データが破損する恐れがあります。
- 市販のSDカードは、16MB～2GBのSDカードまたは4GBのSD HCカードが使用できます。
- SDカードが挿入されていないときに、SDカードが必要な操作を行うと"No Card"と表示されます。

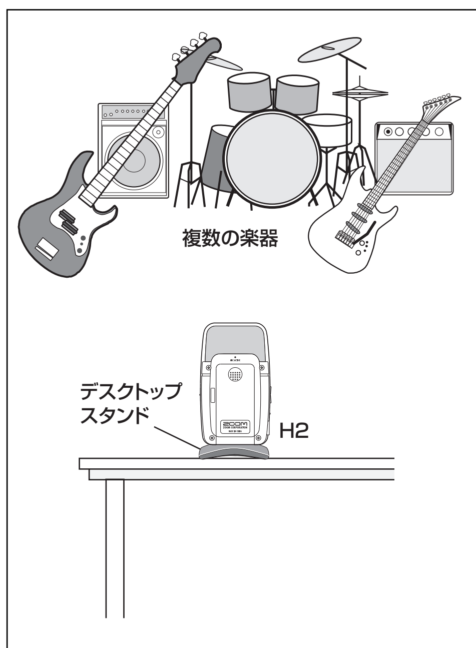
まず録音してみよう

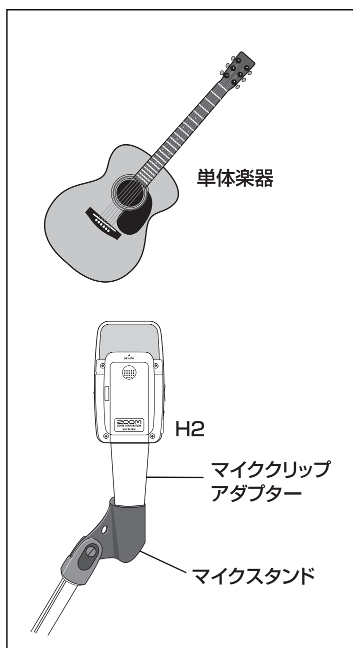
ここでは、H2 を使ってすぐに録音してみたいという方のために、内蔵マイクを使ったステレオモード（2 チャンネル）の録音方法について説明します。

設置

録音したい音源に合わせて、H2 を設置します。H2の内蔵マイクは、フロントまたはリアのどちらの方向からも音を拾うことができますが、それぞれ収音角度が異なります（フロント＝90°、リア＝120°）。ここでは、フロント側を音源に向けて設置してみましょう。

H2 はデスクトップスタンド（付属品）を取り付けて平らなテーブルなどの上に置くか、マイククリップアダプター（付属品）を取り付けて、マイクスタンドのホルダー部分に差し込んで設置してください。





電源を入れる

H2の電源を入れるときは、次の手順で操作します。

1. SDカードをH2に挿入します。

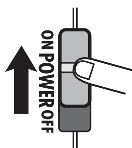
H2の電源がオフになっていることを確認し、[SD CARD] スロットにSDカードを挿入してください（→P11）。
また、H2の[PHONES/LINE OUT] 端子にモニターシステムまたはヘッドフォンが接続されていることを確認してください。

HINT

外部のモニターシステムを使用するときは、最初にモニターシステムのボリュームを絞り、電源を切っておいてください。

2. H2→モニターシステムの順に、電源を入れます。

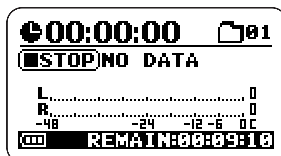
H2の電源を入れるには、[POWER]スイッチをオンに切り替えてください。次にモニターシステムの電源を入れ、ボリュームを適切な位置まで上げてください。



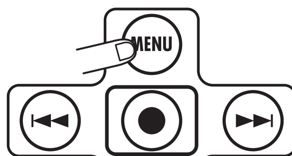
NOTE

・起動時に"No Card"と表示される場合は、SDカードを検出できていません。SDカードが正しく挿入されているかご確認ください。
・起動時に"Format Card?"と表示される場合は、H2で初期化していないカードが挿入されています。初期化を実行するには、(REW)キー／(FF)キーを使ってYESにカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。

H2が起動すると、次の画面が現れます。



この画面は、H2で行うさまざまな操作の出発点となる"トップ画面"です。別の画面が表示されているときは、(MENU)キーを繰り返し押して、上記の画面を表示させてください。



HINT

トップ画面には、現在選ばれているモードに応じて、ステレオモードのトップ画面と4チャンネルモードのトップ画面の2種類があり、表示内容が若干異なります。

なお、H2にはファイルに録音日時を記録するための時計が内蔵されており、初めてH2の電源を入れたときに日付／時刻を設定するように求めるメッセージが表示されます。"日付／時刻を設定する"（→P78）の手順に従って、日時を入力してください。

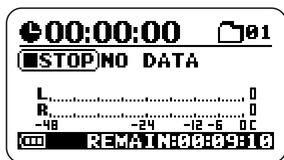
NOTE

上記の操作を省略すると、すべてのファイルに規定値の日時（2007/01/01）が記録されますので、ご注意ください。

動作モードを選ぶ

H2では、ステレオモード（2チャンネル録音）と4チャンネルモード（4チャンネル録音）という2種類の動作モードが利用できます。ここでは、動作モードとしてステレオモードを選択します。

1. トップ画面が表示されていることを確認します。

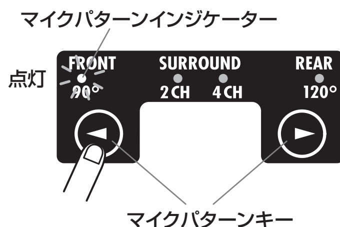


別の画面が表示されているときは、トップ画面が表示されるまで、MENU（MENU）キーを繰り返し押してください。

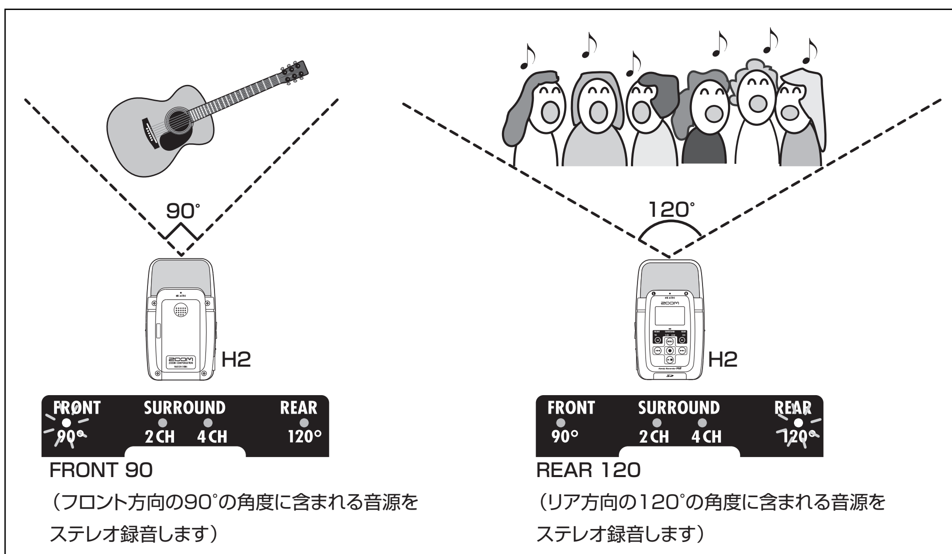
2. マイクパターンを選択します。

“マイクパターン”とは、フロント／リアのどちらの方向を、どんな角度で収音するのかを決める要素です。マイクパターンを切り替えると、自動的にそのパターンに対応する動作モードが選ばれます。

マイクパターンを切り替えるには、マイクパターンキーを押します。現在選ばれているパターンは、マイクパターンインジケーターで確認できます。



音源の横幅や音源との距離に応じて、FRONT 90（フロント方向の90゜の角度をステレオ録音する）またはREAR120（リア方向の



FRONT 90
（フロント方向の90˚の角度に含まれる音源をステレオ録音します）

REAR 120
（リア方向の120˚の角度に含まれる音源をステレオ録音します）

120°の角度をステレオ録音する）のインジケーターを点灯させてください（マイクパターンについての詳しい説明はP21）。

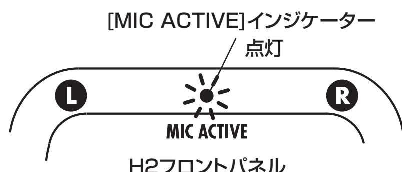
上記2つのマイクパターンを選んだときは、自動的に動作モードとしてステレオモード（2 チャンネル録音）が選ばれます。

NOTE

H2が再生、録音、録音待機状態のとき、また、[EXT MIC IN]端子や[LINE IN]端子に機器が接続されているときは、マイクパターンの変更ができません。

HINT

・フロントパネルとリアパネルにある[MIC ACTIVE]インジケーターの点灯で、現在どちら側を向いたマイクが有効なのかを確認できます。
・フロントまたはリア方向からマイクに入力される信号が大き過ぎて歪んでしまう場合、対応する[MIC ACTIVE]インジケーターが点滅します。



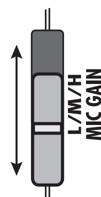
入力感度／録音レベルを設定する

入力信号を適切なレベルで録音するには、入力感度と録音レベルを正しく調節する必要があります。

1. 内蔵マイクの入力感度を調節します。

入力感度の調節とは、内蔵マイクや[EXT MIC IN]端子から入力される信号を、ノイズや歪みのない状態でH2に取り込めるように、入力部分の増幅量を調節する操作です。
内蔵マイクの入力感度を調節するには、右サイドパネルの[MIC GAIN]スイッチを用途に合わせて設定してください。

[MIC GAIN]スイッチ

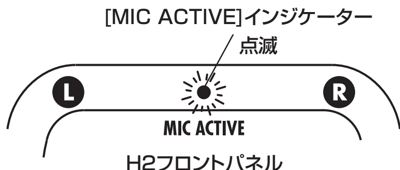


H 音源が遠くにあるときや、小さい音を録音したいときに利用します。

M アコースティックギターなど音量の小さい楽器を録音するときに利用します。

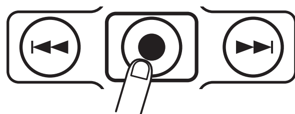
L 音源が近くにあるとき、またはバンド演奏など大きい音を録音するときに利用します。

[MIC GAIN] スイッチを切り替えると、ディスプレイに新しく選ばれた設定を表す文字（例えば“MIC GAIN LOW”など）が、約2秒間表示されます。
なお、[MIC GAIN]スイッチは、音量が最大のときでも、フロントパネル／リアパネルの[MIC ACTIVE] インジケーターが点滅しないような位置に設定してください。音を鳴らしたときに対応する[MIC ACTIVE]インジケーターが点滅する場合、音が歪んで入力されてしまいます。



2. H2を録音待機状態にして、録音レベルを調節します。

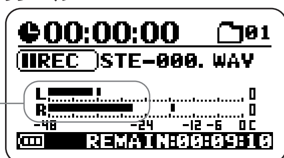
録音レベルの調節とは、SDカードに録音される信号のレベルを増減する操作です。これを行うには、ステレオモードのトップ画面が表示されていることを確認し、(REC)キーを押してください。



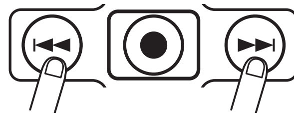
これでH2が録音待機状態になり、フロントパネルの[PLAY/REC] インジケーターが赤く点滅します。



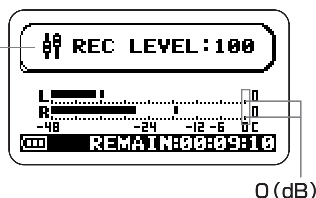
このとき、入力信号のレベルがディスプレイ上のメーターに表示され、[PHONE/LINE OUT]端子からモニターできます。



録音レベルを調節するには、(REW)／(FF) キーを使用します。



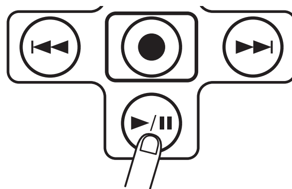
どちらか一方のキーを1回押すと、ディスプレイに現在の録音レベルの値が表示されます。



続けてキーを操作すると、録音レベルの値が変化します。最大音量で音を鳴らしても、メーターが0(dB)の位置に到達しない範囲で、なるべく高い値に設定してください(設定範囲:0〜127)。

3. 録音待機状態を解除します。

録音待機状態を解除するには、(PLAY/PAUSE)キーを押してください。



録音する／再生する

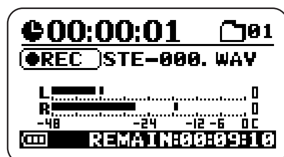
H2で録音／再生を行うには､次のように操作します。

1. H2を録音待機状態にします。

ディスプレイにステレオモードのトップ画面を表示させ、●（REC）キーを押してH2を録音待機状態にしてください。

2. 録音を開始します。

もう1回●（REC）キーを押してください。フロントパネルの[PLAY/REC]インジケーターが赤く点灯して録音が始まり、ディスプレイのカウンターが進行していきます。



3. 録音を終了します。

録音を終了するには、●（REC）キーを押してください。[PLAY/REC]インジケーターが消灯します。録音を終了すると､カウンターが先頭に戻り､先頭から再生可能になります。

4. 録音内容を確認します。

録音した内容を再生するには、▶/II（PLAY/PAUSE）キーを押します。再生中は、[PLAY/REC]インジケーターが緑色に点灯します。もう1回▶/II（PLAY/PAUSE）キーを押すと、再生が止まります。

電源を切る

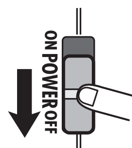
H2の電源を切るときは､次の手順で操作します。

1. モニターシステムのボリュームを下げます。

2. モニターシステム→ H2 の順で電源を切ります。

電源をオフにするには、まずモニターシステムの電源を切ってから、H2の[POWER]スイッチをオフに切り替えてください。

ディスプレイに“GoodBye See You!”と表示され､H2の電源がオフになります。このとき､操作中の各種情報が自動的にSDカードに保存されます。



NOTE

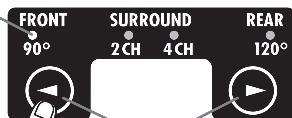
H2の電源のオン／オフを切り替えるには、必ず[POWER]スイッチをご使用ください。電源が入ったままでACアダプターを抜き差しすることは絶対にお止めください。データが破損することがあります。

ステレオモードの録音

ここでは、ステレオモードの録音方法について説明します。

ステレオモードについて

選択されているマイクパターンのインジケーターが点灯



◄/► (マイクパターン)キー

ステレオモードは、内蔵マイク、外付けマイク、CDプレーヤーなど外部機器からの信号をステレオ (2チャンネル) 録音するためのモードです。H2をステレオモードにするには、次のように操作します。

● 内蔵マイクからの信号を録音する場合

マイクパターン (録音する方向や収音角度の組み合わせ) として、SURROUND 4CH 以外のパターンを選びます (マイクパターンについての詳細は→P21)。これを行うには、フロントパネルの ◄/► (マイクパターン) キーを使って、SURROUND 4CH 以外のマイクパターンインジケーターを点灯させせます。

● 外付けマイクまたは外部機器からの信号を録音する場合

[EXT MIC IN] 端子または[LINE IN] 端子に外部機器を接続します。これらの端子のいずれか一方でもケーブルが接続されていれば、内蔵マイクが無効になります。

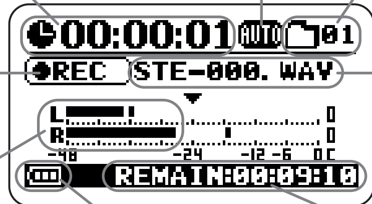
下の図は、ステレオモードのトップ画面です。この画面には、以下の情報が表示されます。

カウンター
現在のファイルの再生時間、または録音時間を時間／分／秒単位で表示します。

各種オプション機能のアイコン
リピート再生やオートレコード機能が有効なときに、そのアイコンを表示します。

フォルダ番号
録音したファイルの保存先として選択されているフォルダ(階層)の番号を表示します(01〜10)。

レコーダーの状態
現在のレコーダーの状態を表示します。再生、一時停止、停止、録音待機、録音の5種類の状態に対応するマークが示されます。



ファイル名
通常は再生の対象として選ばれているファイルの名前を表示します。また、録音待機中および録音中には、録音の対象となるファイルの名前を表示します。

レベルメーター
現在の入力レベル／出力レベルを表示します。メーターの右端には、信号がクリップしたとき(音が割れたとき)に点灯するクリップメーターがあります。再生中または録音中に信号がクリップすると、再生／録音が終了するまでクリップメーターが点灯し続けます。

電池の残量
電池の残量を表示します。

録音可能な残り時間
現在選択されている録音モード(ファイルフォーマット、量子化ビット数、サンプリング周波数)で、録音可能な残り時間を表示します。

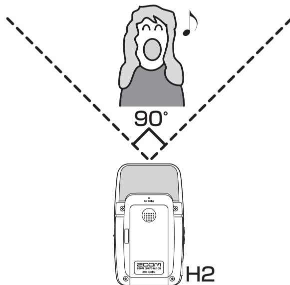
セットアップ例①内蔵マイク

内蔵マイクを使ってステレオモードで録音する場合、フロントまたはリア方向にある音源をステレオで録音できます。マイクパターンを選択することで、録音する方向や収音角度（90°または120°）が切り替わります（→P21）。また、H2を中心にして前後の音を2チャンネル録音することもできます。フロントまたはリア方向のステレオ録音を行う場合は、録音に使用する側のパネルを音源に向けるのが基本です。

H2はデスクトップスタンド（付属品）を取り付けて平らなテーブルなどの上に置くか、マイククリップアダプター（付属品）を取り付けて、マイクスタンドのホルダー部分に差し込んで設置してください。H2を床やテーブルの上に直置きすると、余計な振動を拾ってしまうので、避けてください。

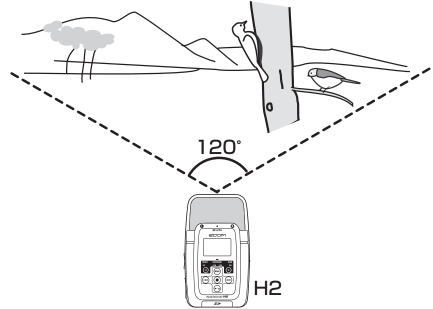
■ ソロボーカルや単体楽器を録音する場合

使用する面と収音角度は、現在選ばれているマイクパターンによって決まります。通常は、余計な音を拾わないように、マイクパターンとして収音角度が90°の“FRONT 90”を選び、フロント側を音源に向けるといいでしょう。オンマイクで録音するときは10～30cm、オフマイクで録音するときは50cm～1.5m程度音源から離して設置します。



■ バンドのライブ録音やフィールドレコーディングを行う場合

通常は、空気感も含めて録音できるように、マイクパターンとして収音角度が120°の“REAR 120”を選び、リア側を音源に向けるといいでしょう。



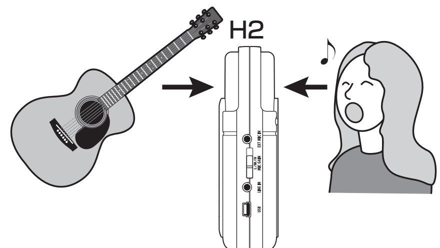
NOTE

・フィールドレコーディングに使用する場合、H2本体を素手で持つと“ガサゴソ”とノイズが入ることがあります。マイククリップアダプターを取り付けて、手袋をした手でアダプターをつかむようにしてください。

・風が原因で“ボコボコ”というポップノイズが入る場合は、マイク部分に付属のウィンドスクリーンを取り付けてください。

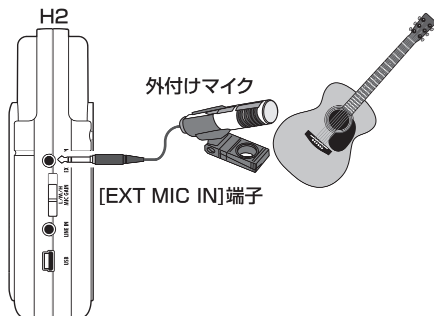
■ 前後の音を同時に録音する場合

H2を垂直に立てて、前後の音を2チャンネル録音することも可能です。例えば、2人で向き合って対談するときや、ボーカルとギター奏者が向き合って録音するときなどに利用できます。



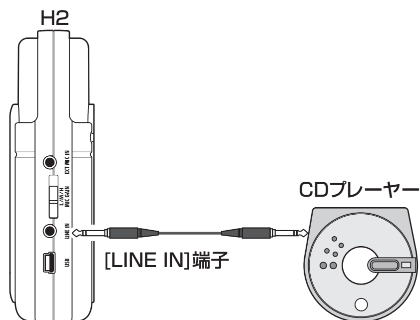
セットアップ例②外付けマイク

外付けマイクを使って録音する場合は、[EXT MIC IN]端子に外付けマイクを接続し、外付けマイクを音源に向けます。モノラル仕様のマイクを接続した場合、Lchにのみ信号が録音されます。



セットアップ例③外部機器の録音

CDプレーヤーなどの外部機器を録音する場合は、[LINE IN]端子に外部機器の出力端子を接続します。付属のY字ケーブルや両端がミニステレオ端子のケーブルをご使用ください。また、エレキギターやベースなどの楽器の入力には対応しておりませんので、ご注意ください。



HINT

- [EXT MIC IN]端子または[LINE IN]端子のどちらか一方でも外部機器が接続されているときは、内蔵マイクは無効となります。
- [EXT MIC IN]端子と[LINE IN]端子の両方に外部機器が接続されているときは、[LINE IN]端子からの信号が優先されます。

用語解説

【オンマイク／オフマイク】
オンマイクは、音源にマイクを近付けて録音すること。オフマイクは、音源からマイクを遠ざけて、周囲の空気感や反響も併せて録音すること。

内蔵マイクのマイクパターンを選択する

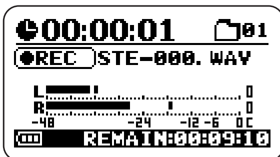
H2の内蔵マイクを使って録音する場合､単に周囲の音を均等に収音するのではなく、収音する方向と角度を指定できます。収音する方向と角度の組み合わせを“マイクパターン”と呼びます。H2には4種類のマイクパターンがあり､そのうち3種類がステレオモードに対応しています。
マイクパターンを選ぶには、次の手順で操作します。

1. [EXT MIC IN]端子または[LINE IN]端子に何も接続されていないことを確認します。

いずれか一方でも外部機器が接続されているときは、内蔵マイクが無効になり、マイクパターンが選択できませんので、ご注意ください。

2. ディスプレイにトップ画面が表示されていることを確認します。

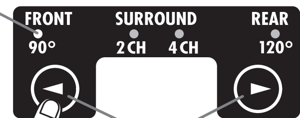
別の画面が表示されていると､マイクパターンの切り替えが行えません。トップ画面が表示されるまで、(MENU)キーを繰り返し押してトップ画面を表示させてください。



3. マイクパターンを切り替えます。

マイクパターンを切り替えるには､▶/◀（マイクパターン）キーを使用します。マイクパターンを切り替えると､対応するマイクパターンインジケーターが点灯し、選択されたパターンがディスプレイにしばらく表示されます。また、選択したマイクパターンに応じて、ステレオモード（2チャンネル録音）と4チャンネルモード（4チャンネル録音）が切り替わります。

選択されているマイクパターンのインジケーターが点灯

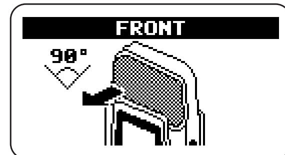


◀/▶（マイクパターン）キー

選択可能なマイクパターンと、そのパターンが対応するモードは、次の通りです。

● **FRONT 90°（ステレオモード）**

フロント方向の90°の角度に含まれる音源をステレオ録音します。



● **SURROUND 2CH（ステレオモード）**

フロント方向とリア方向からの音を2チャンネル録音します。



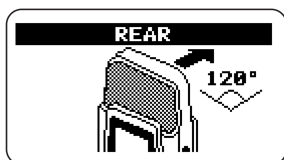
● SURROUND 4CH
(4チャンネルモード)

フロント方向のステレオ信号とリア方向のステレオ信号を4チャンネルに録音します。このマイクパターンを選ぶと、H2が4チャンネルモードに切り替わります(→P27)。

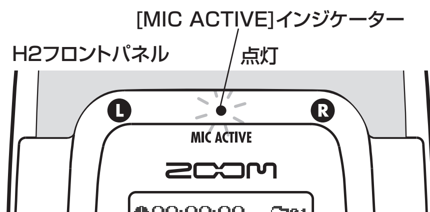


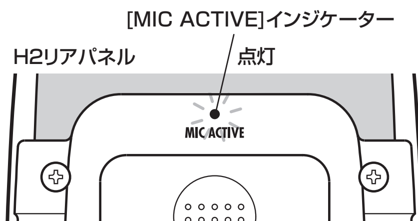
● REAR 120°(ステレオモード)

リア方向の120°の角度に含まれる音源をステレオ録音します。



現在フロント/リアのどちら側の内蔵マイクが有効になっているかは、フロント/リアパネルにある[MIC ACTIVE]インジケーターの点灯でも確認できます。





SURROUND 2CHまたは4CHを選んだときは、フロント/リア両方のインジケーターが点灯します。

NOTE

- マイクパターンは、内蔵マイクに対してのみ有効です。外付けマイクには影響しません。
- [EXT MIC IN]端子や[LINE IN]端子に機器が接続されているときは、内蔵マイクが無効となり、マイクパターンインジケーターがすべて消灯します。
- H2が再生、録音、録音待機状態のときは、マイクパターンを変更できません。

録音する

ステレオモードで録音するには、次のように操作します。

HINT

H2が初期状態のとき、ステレオモードで録音した内容は、ステレオのWAVファイル(量子化ビット数：16bit／サンプリング周波数：44.1kHz)に記録されます。ただし、ファイルフォーマット、量子化ビット数、サンプリング周波数は、必要に応じて録音前に変更できます（→P35）。

1. ステレオモードのトップ画面を表示させます。

2. 録音したい入力ソースを有効にします。

H2では、入力ソースとして、内蔵マイク、[EXT MIC IN] 端子に接続された外付けマイク、[LINE IN] 端子に接続された外部機器が選択できます。

● 内蔵マイクからの信号を録音する場合
[EXT MIC IN] 端子と [LINE IN] 端子に何も接続されていないことを確認してください。いずれか一方の端子にでもケーブルが接続されていると、内蔵マイクは無効になります。

● 外付けマイクまたは外部機器の信号を録音する場合
外付けマイクは[EXT MIC IN] 端子、CD プレーヤーなどの外部機器は [LINE IN] 端子に接続します。なお、両方の端子にケーブルが接続されている場合は、[LINE IN] 端子が優先されますので、ご注意ください。

3. 入力感度を調節します。

内蔵マイクまたは [EXT MIC IN] 端子に接続された外付けマイクを使用する場合は、[MIC GAIN]スイッチを使用して入力感度を設定します。
音量が最大のときでもフロントパネル／リアパネルの [MIC ACTIVE] インジケーターが点滅しないような位置に、[MIC GAIN]スイッチを設定してください([MIC GAIN] スイッチの推奨設定については、P15をご参照ください)。

HINT

[MIC ACTIVE] インジケーターが点滅すると、信号が歪んだ状態で録音されてしまいますので、ご注意ください。

4. H2を録音待機状態にします。

H2を録音待機状態にするには、●(REC)キーを押して、フロントパネルの [PLAY/REC] インジケーターを赤く点滅させてください。ディスプレイに入力レベルがメーター表示され、[PHONES/LINE OUT]端子から入力信号をモニターできるようになります。また、この録音操作で作成されるファイル名が表示されます。



HINT

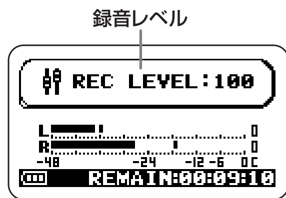
- H2の設定を切り替えれば、録音待機状態にしなくても、常に入力信号をモニターすることが可能です（→P79）。
- ステレオモードでは、録音操作を行うたびに新しいファイルが作成され、“STE-xxx.WAV (MP3)”（xxx＝000～999 の番号）という

名前が自動的に付けられます。このファイル名は後から変更することも可能です(→P50)。

5. 録音レベルを調節します。

録音レベルの調節には、⏮(REW)/⏭(FF)キーを使います。どちらか一方のキーを1回押すと、ディスプレイに現在の録音レベルの値が表示されます。続けてキーを押すと、録音レベルの値が増減します。
最大音量で音を鳴らしたときでも、ディスプレイ上のメーターが0(dB)を越えない範囲で、なるべく高い値に設定してください(設定範囲:0〜127)。

録音レベル



[LINE IN] 端子に接続されたCDプレーヤーなどの外部機器を録音する場合は、外部機器側のボリュームを操作して、録音レベルを調節してください。

HINT

録音待機状態を解除したいときは、⏯(PLAY/PAUSE)キーを押してください。

6. 録音を開始します。

録音待機状態でもう1回⏺(REC)キーを押すと、[PLAY/REC]インジケーターが赤く点灯し、録音が始まります。現在位置はカウンターの数値で確認できます。

HINT

- 録音は常に新規ファイルの先頭から開始されます。途中から録音し直すことはできません。
- 録音中に⏯(PLAY/PAUSE)キーを押すと、録音中のファイルに、BWFに対応したキューポイントを設定できます。⏯(PLAY/PAUSE)キーを押したときに、ディスプレイには“MARKxx”(xx=1〜99)と表示され、その位置に1〜99の番号を持つマークが作成されます。
- 必要ならば、マークが記録された時刻(時間:分:秒)を確認できます(→P59)。

7. 録音を終了します。

録音を終了するには、⏺(REC)キーを押して[PLAY/REC]インジケーターを消灯させてください。録音を終了すると、カウンターが先頭に戻り、先頭から再生できる状態になります。

8. 録音内容を確認します。

録音した内容を再生するには、⏯(PLAY/PAUSE)キーを押します。もう1回⏯(PLAY/PAUSE)キーを押すと、再生が止まります。
なお、録音をやり直した場合、直前のファイルに上書きするのではなく、新規のファイルが作成されます。不要なファイルを削除する方法は、P52をご参照ください。

用語解説

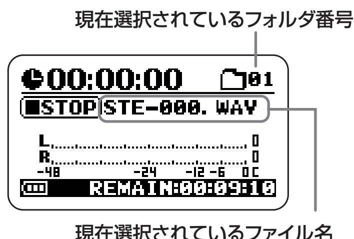
【BWF(Broadcast Wave Format)】
主に放送局などで利用されるWAVファイルの拡張フォーマット。ファイルに制作日時やキューポイントを埋め込むことができる。

再生する

ここでは、ステレオモードで録音したファイルを選んで再生する方法を説明します。
ステレオモードでは、1回の録音操作につき、1つのステレオファイル（WAVまたはMP3フォーマット）が作成されます。これらのファイルは、現在選択されているSDカード上の01～10のフォルダに格納されます。ここでは、録音済みのステレオファイルから任意のファイルを選んで再生する方法を説明します。

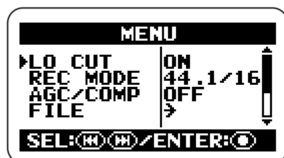
1. ディスプレイにステレオモードのトップ画面を表示させます。

画面の中央に表示されているファイルが、再生の対象となります。再生できるファイルは、現在選択されているフォルダに格納されているファイルに限られます。



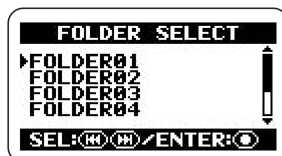
2. 再生したいファイルを含むフォルダを選択します。

フォルダを選択するには、MENU（MENU）キーを押して、次の画面を呼び出します。



この画面は、さまざまな設定メニューを呼び出すメインメニュー画面です。
メインメニュー画面では、⏮（REW）／⏭（FF）キーを使って操作したい項目にカーソル（▶のマーク）を合わせ、●(REC)キーを押してその項目の設定画面を呼び出します。また、もう1回MENU（MENU）キーを押すと、トップ画面に戻ります。

ここでは、⏮（REW）／⏭（FF）キーを繰り返し押して“FOLDER”にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してフォルダの選択画面を表示させてください。



次に、⏮（REW）／⏭（FF）キーを使って希望するフォルダにカーソルを合わせ、●（REC）キーを押して選択を確定してください。
フォルダの選択が終わったら、ステレオモードのトップ画面に戻るまで、MENU（MENU）キーを繰り返し押します。

HINT

再生したいファイルを含むフォルダがすでに選択されている場合、この操作は不要です。

3. 再生するファイルを選択します。

現在選ばれているフォルダ内で次のファイルを選ぶには、⏭（FF）キーを押してすぐに放します。また、1つ前のファイルを選択するには⏮（REW）キーを押してカウンターをゼロに戻し、もう1回同じキーを押してすぐに放します。

HINT

現在選択されているフォルダにファイルがないときは、“NO DATA”と表示されます。

なお、フォルダ内でファイル名が表示される順番は、ファイル名で使用されている文字や記号の順で決まります。表示される順番は次の通りです。

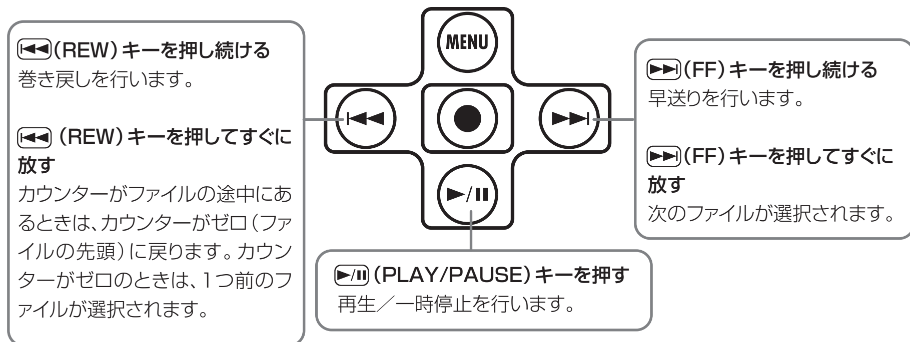
(スペース)!#$%&'()+,- 0123456789
;=@
ABCDEFGHIJKLMNOPQRS TUVWXY
Z[ ] ^ _ `
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{ }˜

4. 選んだファイルを再生します。

選択したファイルを再生するには、(PLAY/PAUSE)キーを押してください。再生中は、フロントパネルの[PLAY/REC]インジケーターが緑色に点灯します。

再生を一時停止するには、もう1回 (PLAY/PAUSE) キーを押します。

なお、ステレオモードでは、各キーを使用して下図のような操作が行えます。



4チャンネルモードの録音

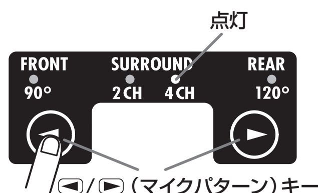
ここでは、4チャンネルモードの録音方法について説明します。

4チャンネルモードについて

4 チャンネルモードは、内蔵マイクを使ってフロント／リア両方向のステレオ信号を2 つのWAV ファイルに4 チャンネル録音するモードです。
例えば、バンドのリハーサル時にH2 を中央に設置して、前後の楽器音を録音したり、フィールドレコーディングでターゲットの音源と環境音を同時に録音したり、ライブ演奏と客席ノイズを同時に録音したりできます。4 チャンネルモードで録音した内容は、フロントとリアの信号がミックスされ、ステレオ（2 チャンネル）で再生されます。なお、後から前後左右のバランスを調節したり、ステレオのWAV ファイルに変換したりできます。

さらに、4 チャンネルモードで作成される2つのWAVファイルをサラウンドエンコーダーの素材として利用すれば、家庭用のサラウンドシステムで再生できる5.1ch サラウンドオーディオを作成することも可能です。

H2 を4 チャンネルモードに切り替えるには、マイクパターンとしてSURROUND 4CH を選びます（マイクパターンについての詳細は→P21）。これを行うには、フロントパネルの ◄/► （マイクパターン）キーを使って、SURROUND 4CH マイクパターンインジケーターを点灯させます。



なお、H2を4 チャンネルモードで使用したいときは、[EXT MIC IN] 端子と[LINE IN] 端子に外部機器が接続されていないことを確認してください。

NOTE
SURROUND 4CH 以外のマイクパターンを選ぶと、H2がステレオモードに切り替わります（他のマイクパターンについては→P21）。

次ページの図は、4チャンネルモードのトップ画面です。この画面には、以下の情報が表示されます。

カウンター

現在のファイルの再生時間、または録音時間を時間／分／秒単位で表示します。

各種オプション機能のアイコン

リピート再生、オートレコード機能が有効なときに、そのアイコンを表示します。

4チャンネルアイコン

H2が4チャンネルモードのとき、このアイコンが表示されます。

レコーダーの状態

現在のレコーダーの状態を表示します。再生、一時停止、停止、録音待機、録音の状態がアイコンで示されます。

ファイル名

通常は再生の対象として選ばれているファイルの名前を表示します。また、録音待機中および録音中には、録音の対象となるファイルの名前を表示します。

4チャンネルモードでは、フロント／リアの両方向から録音される2つのステレオファイル（WAVフォーマット）を1組として扱います。ディスプレイに表示されるファイル名"SRxxxF/R.WAV"（xxx＝000〜499）は、フロントのステレオファイル"SRxxxF.WAV"とリアのステレオファイル"SRxxxR.WAV"のペアを表しています。

レベルメーター

現在の入力レベル／出力レベルを表示します。メーターの右端には、信号がクリップしたとき（音が割れたとき）に点灯するクリップメーターがあります。再生中または録音中に信号がクリップすると、再生／録音が終了するまでクリップメーターが点灯し続けます。

電池の残量

電池の残量を表示します。

録音可能な残り時間

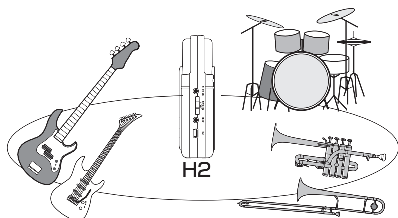
現在選択されている録音モード（量子化ビット数、サンプリング周波数）で、録音可能な残り時間を表示します。

セットアップ例

4 チャンネル録音を行うときは、マイクを次のように設置します。

■ バンドのリハーサルを録音する場合

バンドのメンバーが向き合ってリハーサルを行う場合は、H2 をバンドの中心に設置します。



HINT

4チャンネルモードで録音した場合、録音後に前後左右の音量バランスを調節できます。

■ フィールドレコーディングに使用する場合

H2 を垂直に立て、フロントパネルを主要な音源に向けます。

NOTE

フィールドレコーディングに使用する場合、H2本体を素手で持つと "ガサゴソ" とノイズが入ることがあります。マイククリップアダプターを取り付けて、手袋をした手でアダプターをつかむようにしてください。

録音する

4 チャンネルモードで録音するには、次のように操作します。

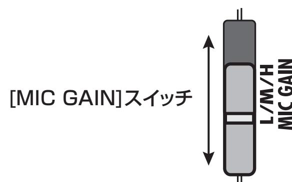
HINT

- H2が初期状態のとき、4チャンネルモードで録音した内容は、2つのステレオWAV ファイル（量子化ビット数：16bit ／サンプリング周波数：44.1kHz）に記録されます。ただし、量子化ビット数とサンプリング周波数については、必要に応じて録音前に変更できます(→P35)。
- 必要ならば、4チャンネルモードで録音した内容を、前後左右のバランスを調節した状態で、1つのステレオWAV ファイルに変換できます（→P57)。

1. 4チャンネルモードのトップ画面を表示させます。

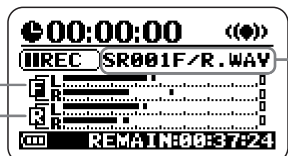
2. 内蔵マイクの入力感度を調節します。

4 チャンネル録音では、内蔵マイクのみが使用できます。内蔵マイクの入力感度は、[MIC GAIN] スイッチを使って調節します。
音量が最大のときでもフロントパネル／リアパネルの [MIC ACTIVE] インジケーターが点滅しないような位置に、[MIC GAIN]スイッチを設定してください（[MIC GAIN] スイッチの推奨設定については、P15をご参照ください)。



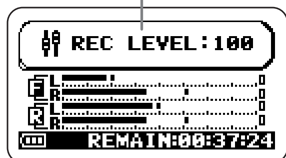
3. H2を録音待機状態にします。

H2を録音待機状態にするために、(REC)キーを押して、[PLAY/REC]インジケーターを赤く点滅させてください。ディスプレイに入力レベルがメーター表示され、[PHONES/LINE OUT]端子から入力信号をモニターできるようになります。また、この録音操作で作成される2つのファイルの名前が表示されます。



4. 録音レベルを調節します。

録音レベルの調節には(REW)／(FF)キーを使用します。どちらか一方のキーを1回押すと、ディスプレイに現在の録音レベルの値が表示されます。続けてキーを押すと、録音レベルの値が増減します。
最大音量で音を鳴らしたときでも、ディスプレイ上のメーターが0(dB)を越えない範囲で、なるべく高い値に設定してください(設定範囲：0～127)。



NOTE

フロント／リアで録音レベルを個別に設定することはできません。

HINT

録音待機状態を解除したいときは、(PLAY/PAUSE)キーを押してください。

5. 録音を開始します。

録音待機状態でもう1回(REC)キーを押すと、[PLAY/REC]インジケーターが赤く点灯して録音が始まります。現在位置はカウンターの数値で確認できます。

HINT

- 録音は常に新規ファイルの先頭から開始されます。途中から録音し直すことはできません。
- 録音中に(PLAY/PAUSE)キーを押すと、録音中のファイルに、BWFに対応したキューポイント(→P24)を設定できます。(PLAY/PAUSE)キーを押したとき、ディスプレイに"MARKxx"(xx＝1～99の番号)がポップアップ表示されます。

6. 録音を終了します。

録音を終了するには、(REC)キーを押して[PLAY/REC]インジケーターを消灯させてください。録音を終了すると、カウンターが先頭に戻り、先頭から再生できる状態になります。

HINT

録音内容を記録した2つのファイルは、4チャンネルモードの専用フォルダに保存されます。

7. 録音内容を確認します。

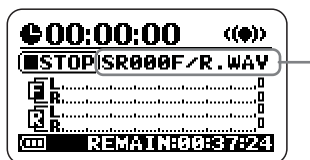
録音した内容を再生するには、(PLAY/PAUSE)キーを押します。フロント／リアの信号がミックスされ、ステレオ(2チャンネル)で再生されます。もう1回(PLAY/PAUSE)キーを押すと、再生が止まります。

再生する

4チャンネルモードでは、録音操作を行うたびに、フロント／リアに対応する2つのステレオファイル（WAV）が作成され、専用のフォルダに保存されます。ここでは、4チャンネルモードで録音したペアになったファイルを選んで再生する方法を説明します。

1. ディスプレイに4チャンネルモードのトップ画面を表示させます。

トップ画面の中央に表示されているファイルが、再生の対象となります。表示されるファイル名"SRxxxF/R.WAV"（xxx＝000～499）は、フロントのステレオファイル"SRxxxF.WAV"とリアのステレオファイル"SRxxxR.WAV"のペアを表しています。



現在選択されているペアのファイルの名前

2. 再生する2つのファイルを選択します。

現在再生対象として選択されているペアの次のペアを選ぶには、⏭（FF）キーを押して、すぐに放します。また、1つ前のペアを選択するには、カウンターがゼロのときに⏮（REW）キーを押してすぐに放します。

HINT

・4チャンネルモードで録音したファイルは、すべて同じ専用フォルダに格納されます。このため、フォルダを選ぶ必要はありません。

・4チャンネルモードで何も録音されていないときは"NO DATA"と表示されます。

NOTE

4チャンネルモードで作成されたファイルの名前は変更できません。

3. ファイルを再生します。

選択したペアのファイルを再生するには、▶/⏸（PLAY/PAUSE）キーを押してください。[PLAY/REC]インジケーターが緑色に点灯し、フロントとリアのステレオ信号（4チャンネル）がステレオ（2チャンネル）にミックスされて、再生されます。再生を一時停止するには、もう1回▶/⏸（PLAY/PAUSE）キーを押します。

再生／一時停止、早送り／巻き戻しなどの操作は、ステレオモードと共通です（→P26）。

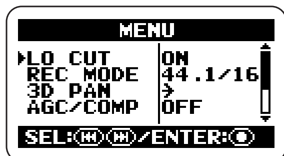
前後左右のバランスを調節する (3Dパン)

ここでは、4チャンネルモードで録音したファイルの前後左右のバランスを調節する、3Dパンの使い方について説明します。

1. 4チャンネルモードで、音量バランスを調節したいペアのファイルを選びます。

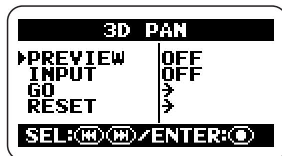
2. 4チャンネルモードのメインメニュー画面を呼び出します。

メインメニュー画面は、4チャンネルモードの各種設定を行うための画面です。ステレオモードのメインメニュー画面とは内容が異なります。この画面を呼び出すには、4チャンネルモードのトップ画面で MENU (MENU) キーを押してください。



3. 3D PANメニューを呼び出します。

(REW) / (FF) キーを繰り返し押して"3D PAN"にカーソルを合わせ、 (REC) キーを押してください。3D パン機能に関する各種設定を行う 3D PANメニューが表示されます。



3D PAN メニューでは、以下の項目を操作できます。

● PREVIEW

3D パンの調節を行うときに、現在選ばれている2 つのファイルを [PHONES/LINE OUT] 端子からモニターするかどうかを選択します。

● INPUT

3D パンの調節を行うときに、内蔵マイクからの入力信号を[PHONES/LINE OUT] 端子からモニターするかどうかを選択します。

● GO

この位置にカーソルを合わせてから、 (REC) キーを押すと、3D パンの調節を行う3D PAN画面に進みます。

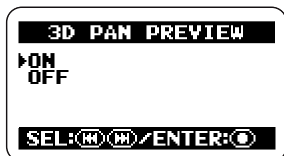
● RESET

この位置にカーソルを合わせてから、 (REC) キーを押すと、3D パンの設定が初期状態に戻ります。

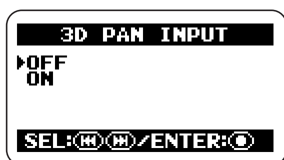
4. 3Dパンの調節中にモニターする信号を選びます。

3Dパンの調節中にモニターする信号を選ぶには、上記の画面で"PREVIEW" または"INPUT"にカーソルを合わせ、 (REC) キーを押します。

"PREVIEW"を選んだ場合は 3D PAN PREVIEW画面が表示されます。



“INPUT”を選んだ場合は、3D PAN INPUT 画面が表示されます。



それぞれの画面でONにカーソルを合わせ、●(REC)キーを押すと、対応する信号をモニターできるようになります。●(REC)キーを押して設定を確定すると、3D PANメニューに戻ります。

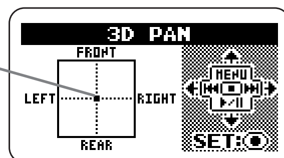
HINT

録音結果に対して3Dパンを設定したいときは“PREVIEW”、内蔵マイクから入力される信号の3Dパンを設定したいときは“INPUT”をオンに設定するといいでしょう。必要ならば、両方を同時にオンにすることも可能です。

なお、“INPUT”をオンにした場合、モニターしている入力信号に対しては3Dパンの設定が影響しますが、それを録音した結果には反映されませんので、ご注意ください。例えば、3Dパンを特定の方向に寄せて録音した場合でも、録音自体は標準的なバランスで録音されます。

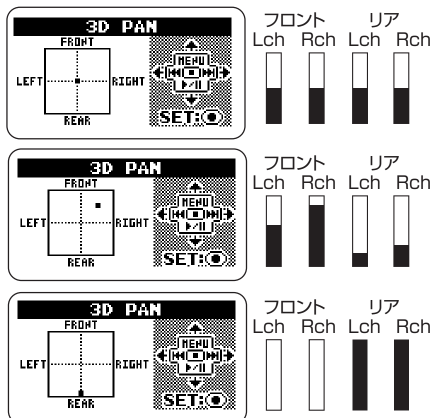
5. 3Dパン画面を表示させます。

3Dパン画面を表示させるには、3D PANメニューを呼び出し、“GO”にカーソルを合わせて●(REC)キーを押してください。手順4で“PREVIEW”をオンに設定してあれば、3D PAN 画面を表示されたときに、現在選択されているファイルが自動再生されます。



3D PAN 画面には、前後(FRONT／REAR)と左右(LEFT／RIGHT)の方向を表すグラフが表示されます。グラフ内に表示される●のマークは、現在の3Dパンの設定値(フロントL／Rとリア L／R の音量バランス)を表しています。

●のマークを特定の方向に近付けたときはその方向の音量が大きくなり、逆に離したときは音量が小さくなります。



6. 3Dパンを調節します。

●のマークを上下方向に移動させるには(MENU)/(PLAY/PAUSE)キー、左右方向に移動させるには(REW)/(FF)キーを押してください。
位置を決めたら、(REC)キーを押して3Dパンの設定を確定してください。3D PANメニューに戻ります。
また、4チャンネルモードのトップ画面に戻るには、繰り返し(MENU)キーを押します。

HINT

4チャンネルモードで録音した2つのステレオファイルに3Dパンの効果を加え、1つのステレオファイルとして書き出すことも可能です(→P57)。

NOTE

- 3Dパンの設定はファイルごとに保存されるのではなく、すべてのファイルに共通の設定が1つだけ保存されます。再生するファイルを切り替えても、3Dパンの設定は変化しませんので、ご注意ください。
- 3Dパンの設定を初期状態に戻すには、3D PANのメニューで"RESET"にカーソルを合わせ、(REC)キーを押します。

録音に便利な機能

ここでは、録音時に便利な各種機能について説明します。

録音モードを選ぶ

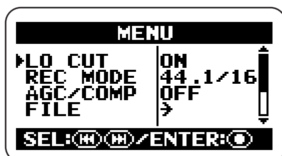
H2では、録音する素材や状況に応じて、録音モード（ファイルフォーマット、サンプリング周波数、量子化ビット数などの録音の要素）を何種類かの中から選択できます。

NOTE

レコーダーの動作中には、以下の設定が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。

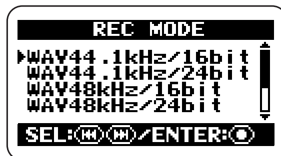


HINT

ステレオモードと4チャンネルモードとでは、選択可能な録音モードが異なります。

2. REC MODE画面を呼び出します。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを繰り返し押して"REC MODE"にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。REC MODE画面が呼び出されます。



この画面では、録音モードを選択します。それぞれの録音モードでは、ファイルフォーマット、サンプリング周波数、量子化ビット数が次のように表示されます。



ステレオ／4 チャンネルモードで選択可能な録音モードは、次の通りです。

【ステレオモード】

表示	ファイルフォーマット
WAV44.1kHz/16bit	WAV
WAV44.1kHz/24bit	
WAV48kHz/16bit	
WAV48kHz/24bit	
WAV96kHz/16bit	
WAV96kHz/24bit	
MP3 48k, 56k, 64k, 80k, 96k, 112k, 128k, 160k, 192k, 224k, 256k, 320kbps	MP3
MP3 VBR	

VBR（Variable Bit Rate）：入力ソースの情報量に応じて、ビット数が変化する方式

【4チャンネルモード】

表示	ファイルフォーマット
WAV44.1kHz/16bit	WAV
WAV44.1kHz/24bit	
WAV48kHz/16bit	
WAV48kHz/24bit	

3. 録音モードを選びます。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを繰り返し押して希望するモードにカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。変更箇所が確定し、メインメニュー画面に戻ります。

HINT

●（REC）キーの代わりにMENU（MENU）キーを押すと、変更箇所を破棄してメインメニュー画面に戻ります。

4. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返しMENU（MENU）キーを押してください。

HINT

ステレオモードでWAVフォーマットを選んで録音しておき、後からMP3フォーマットに変換することも可能です（→P55）。

用語解説

【ファイルフォーマット】
SDカードに保存されるファイルの形式。H2で選択可能なファイルフォーマットには、非圧縮のWAV、信号を圧縮して記録するMP3がある。

【サンプリング周波数】
アナログ信号をデジタル化するときの標本化（サンプリング）の頻度を表す数値。数値が大きいほど高い周波数まで再生できるが、それだけSDカードの容量を消費する。

【量子化ビット数】
アナログ信号をデジタル化するときの強弱の細かさを表す数値。数値が大きいほど広いダイナミックレンジが得られるが、それだけSDカードの容量を消費する。

AGC／コンプレッサー／リミッター機能を利用する

バンドのライブ演奏やフィールドレコーディングなど、レベルの予想しにくいソースを録音したいときは、レベルを自動設定するAGC／コンプレッサー／リミッター機能が利用できます。

AGC（Auto Gain Control）とは、録音レベルの増幅量を入力信号に合わせて自動設定する機能です。レベルの低い信号は持ち上げ、レベルの高い信号は抑えることで、ノイズや歪みが少ない録音が行えます。

NOTE

AGCが有効なとき、[MIC GAIN] スイッチの設定は無効になります。

コンプレッサーは、レベルの低い信号は持ち上げ、レベルの高い信号は抑えるという点ではAGCと似ていますが、入力信号のダイナミクスを加工して、積極的な音色作りに利用できる点が特徴です。

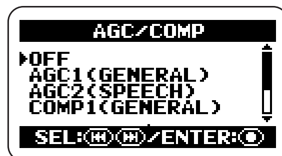
リミッターは、入力信号が一定レベルを超えたときにレベルを抑えて、信号が歪んで録音されるのを防ぐ機能です。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。

2. AGC/COMP画面を呼び出します。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを繰り返し押して“AGC/COMP”にカーソルを合わせ、●(REC)キーを押してください。



3. AGC／コンプレッサー／リミッターの中から、利用したい機能とその設定を選びます。

AGC／コンプレッサー／リミッター機能は、それぞれ複数の異なる設定から選択できます。選択可能な設定は、次の通りです。

- OFF
  AGC／コンプレッサー／リミッター機能がオフになります。
- AGC1(GENERAL)
  標準的なAGCの設定です。
- AGC2(SPEECH)
  スピーチやナレーションの録音に向いたAGCの設定です。
- COMP1(GENERAL)
  標準的なコンプレッサーの設定です。
- COMP2(VOCAL)
  ボーカルに向いたコンプレッサーの設定です。
- COMP3(DRUM)
  ドラム／パーカッションに向いたコンプレッサーの設定です。
- LIMIT1(GENERAL)
  標準的なリミッターの設定です。

● LIMIT2(CONCERT)
ライブ録音向きのリミッターの設定です。

● LIMIT3(STUDIO)
スタジオ録音向きのリミッターの設定です。

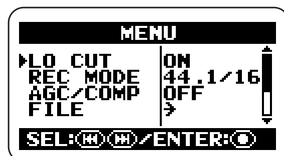
(REW)／(FF)キーを押して希望する設定にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。変更箇所が確定してメインメニュー画面に戻ります。
なお、変更箇所を破棄してメインメニュー画面に戻るには、(MENU)キーを押してください。

4. トップ画面に戻ります。
ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返し(MENU)キーを押してください。

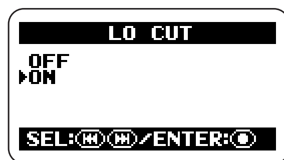
低音をカットする

H2には、入力ソースから低音をカットするローカットフィルターが搭載されています。風による雑音やボーカリストのポップノイズ（パピプペポの破裂音）が目立つときは、以下の操作でローカットフィルターをオンにしてください。

1. メインメニュー画面を呼び出します。
ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、(MENU)キーを押してください。



2. LO CUT画面を呼び出します。
(REW)／(FF)キーを繰り返し押して“LO CUT”にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。



3. LO CUTをオンに設定します。
(REW)／(FF)キーを押してONにカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。変更箇所が確定してメインメニュー画面に戻ります。
なお、変更箇所を破棄してメインメニュー画面に戻るには、(MENU)キーを

押してください。

4. **トップ画面に戻ります。**

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返し(MENU)(MENU)キーを押してください。

オートレコード機能を利用する

オートレコード機能は、録音の開始／終了を自動化する機能です。これを利用すれば、入力信号が一定レベルを越えたときに録音を開始し、一定レベルより下がってから一定時間が過ぎたときに録音を終了できます。作曲のアイディアをメモしたいときや、会議などで会話のある部分だけを録音したいときに便利です。

NOTE

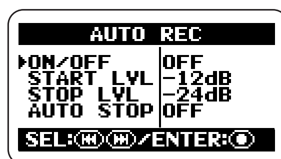
レコーダーの動作中には、以下の設定が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。

1. **メインメニュー画面を呼び出します。**

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、(MENU)（MENU）キーを押してください。

2. **AUTO REC 画面を呼び出します。**

(REW)（REW）／(FF)（FF）キーを繰り返し押して "AUTO REC" にカーソルを合わせ、(REC)（REC）キーを押してください。



3. **オートレコード機能の各種パラメーターを設定します。**

(REW)（REW）／(FF)（FF）キーを押して設定したいパラメーターにカーソルを合わせ、(REC)（REC）キーを押してそのパラメーターの設定画面に入ります。

AUTO REC画面で設定可能なパラメーターは、次の通りです。

● ON／OFF（オン／オフ）
オートレコード機能のオン／オフを切り替えます。

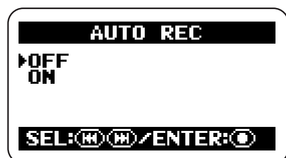
● START LVL（スタートレベル）
録音を開始する基準レベルを設定します。

● STOP LVL（ストップレベル）
録音を終了する基準レベルを設定します。

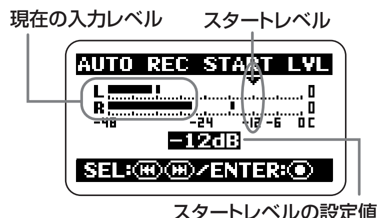
● AUTO STOP（オートストップ）
オートストップ機能のオン／オフ切り替えと、録音を終了するまでの秒数を設定します。入力信号がストップレベルより下がった後で、ここで指定した秒数が経過すると、録音が終了します。

4. オートレコード機能をオンにして、スタートレベルを設定します。

上記のON／OFF部分にカーソルを合わせ、(●)（REC）キーを押すと、画面が次のように変わります。



オートレコード機能をオンにするには、ONにカーソルを合わせ、(●)（REC）キーを押して、AUTO REC画面に戻ってください。
次に、AUTO REC画面のSTART LVLにカーソルを合わせ、(●)（REC）キーを押すと、画面が次のように変わります。



この画面では、スタートレベル（録音を開始する基準レベル）を設定します。実際に音を鳴らしながら、画面上で現在の入力レベルとスタートレベルを確認し、⏮（REW）／⏭（FF）キーを使って最適なスタートレベルを設定してください。設定が終わったら(●)（REC）キーを押して、AUTO REC画面に戻ってください。

HINT
4チャンネルモードでは、フロントとリアの信号をミックスしたレベルが表示されます。

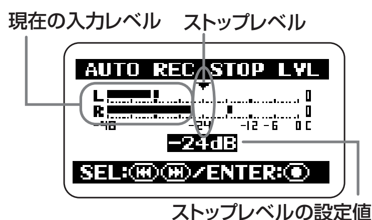
5. 録音終了も併せて自動化したいときは、オートストップ機能をオンにして、ストップレベルを設定します。

オートストップ機能をオンにするには、AUTO REC画面のAUTO STOPにカーソルを合わせ、(●)（REC）キーを押して、AUTO REC STOP画面を表示させます。



この画面では、入力信号がストップレベル（録音を終了する基準レベル）より下がってから録音を終了するまでの秒数を設定します。(REW)／(FF)キーを使って秒数（0～5sec）を選び、(REC）キーを押して、AUTO REC画面に戻ってください。

次に、ストップレベルを設定します。AUTO REC画面のSTOP LVLにカーソルを合わせ、(REC）キーを押して、AUTO REC STOP LVL画面を表示させます。



実際に音を出しながら現在の入力レベルとストップレベルを確認し、(REW)／(FF）キーを使って最適なストップレベルを設定してください。設定が終わったら、(REC）キーを押してAUTO REC画面に戻った後、メイン画面が表示されるまで、(MENU）キーを繰り返し押してください。

HINT

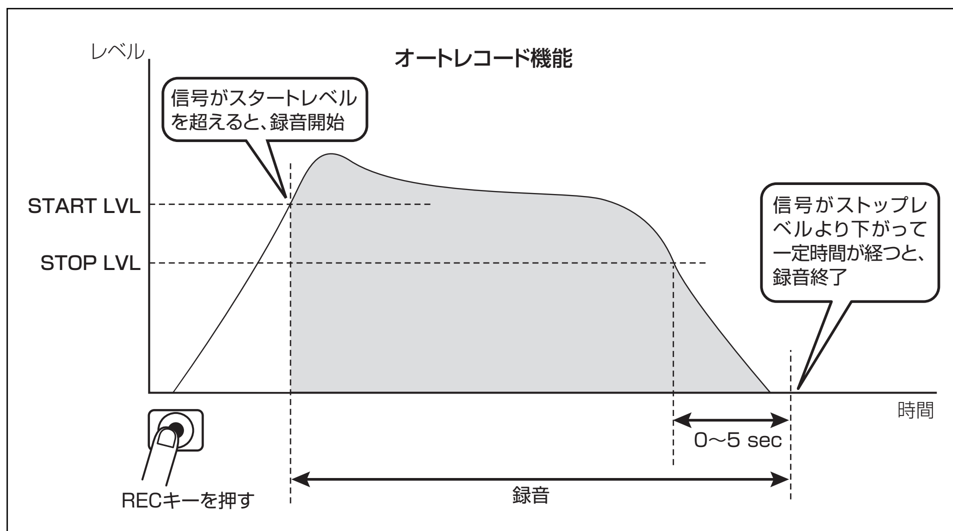
4チャンネルモードでは、フロントとリアの信号をミックスしたレベルが表示されます。

6. オートレコードを実行します。

トップ画面で(REC）キーを1回押して録音待機状態にすると、"Wait For Signal..."と表示されます。



この状態で信号がスタートレベルを越えると、録音が開始されます。



オートストップ機能もオンのときは、信号レベルがストップレベルより下がってから一定時間が経過したところで、録音が終了します。

なお、オートレコード／オートストップ機能がオンのときでも、録音待機状態で (REC) キーをもう1回押すと、録音が開始されます。
また、録音中に (REC) キーを押すと、録音が終了します。

プリレコード機能を利用する

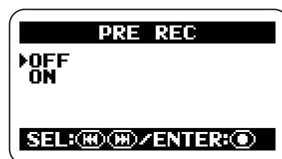
プリレコード機能は、録音待機中に入力される信号を常に一定時間たくわえておき、実際に録音を始める最大2 秒前の音から録音を開始する機能です。
ライブ録音などで突然演奏が始まっても、頭の部分が欠けたりすることなく録音できます。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

トップ画面で、(MENU) キーを押してください。

2. PRE REC 画面を呼び出します。

(REW) ／ (FF) キーを繰り返し押して"PRE REC"にカーソルを合わせ、(REC) キーを押してください。



3. プリレコード機能をオンに設定します。

(REW)／(FF)キーを押して"ON"にカーソルを合わせ、(REC) キーを押してください。プリレコード機能がオンに切り替わり、メインメニュー画面に戻ります。
設定が終わったら、メイン画面が表示されるまで、(MENU) キーを繰り返し押してください。

NOTE

プリレコード機能とオートレコード機能は、同時に使用することができません。両方をオンにしようとすると、最初にオンに設定してあった方の機能がオフに戻ります。

4. 録音操作を行います。

●（REC）キーを押して録音待機状態にしてから、もう 1 回●（REC）キーを押すと、たくわえていたデータから録音を開始します。

さかのぼって録音できる時間は、動作モード、ファイルフォーマット、サンプリング周波数に応じて次のように異なります。

【ステレオモード】

ファイルフォーマット／サンプリング周波数	時間
WAV 44.1kHz	２秒
WAV 48kHz	
WAV 96kHz	１秒
MP3	２秒

【4 チャンネルモード】

サンプリング周波数	時間
44.1kHz	1秒
48kHz	

ステレオ信号をモノラル録音する（ステレオモードのみ）

必要ならば、内蔵マイク／外付けマイクまたは外部機器から入力される信号を、モノラル録音することができます。ナレーションや効果音など、録音した素材をモノラルソースとして扱いたいときに便利です。

NOTE

- 以下の操作を行った場合、内蔵マイク／外付けマイクまたは外部機器から入力されるステレオ信号がミックスされ、ステレオファイルのL/Rチャンネルに同じ信号が録音されます。
- この機能は、ステレオモードでのみ利用できます。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

トップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。

2. MONO MIX画面を呼び出します。

◀◀（REW）／▶▶（FF）キーを繰り返し押して“MONO MIX”にカーソルを合わせ、●(REC)キーを押してください。



3. モノミックス機能をオンに設定します。

◀◀(REW)／▶▶(FF)キーを押して“ON”にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。モノミックス機能がオンに切り替わり、メインメニュー画面に戻ります。

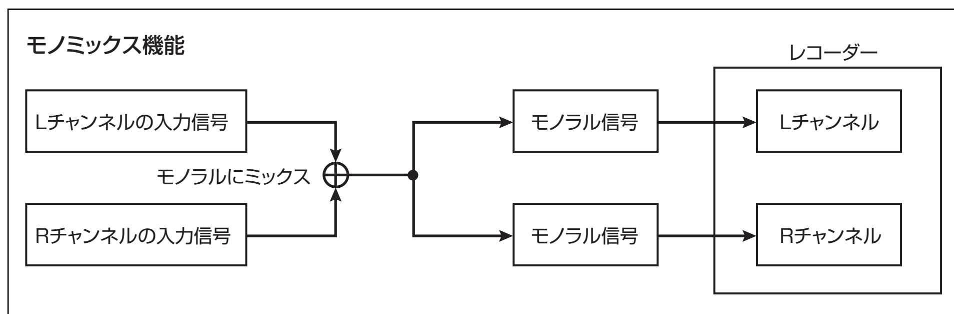
設定が終わったら、メイン画面が表示されるまで、MENU（MENU）キーを繰り返し押してください。

4. 録音操作を行います。

内蔵マイク／[EXT MIC IN]端子／[LINE IN]端子から入力されるステレオ信号がミックスされ、ステレオファイルのL／Rチャンネルに同じ信号が録音されます。

HINT

上記の操作で作成されたファイルには、"MONO-xxx.wav" または "MONO-xxx.mp3"（xxx＝000～999）というファイル名が付けられ、現在選ばれているステレオモード用のフォルダに収納されます。



再生に便利な機能

ここでは、再生時に便利な各種機能について説明します。

プレイモードを選ぶ

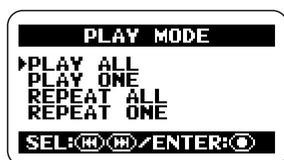
H2が初期状態のとき､録音済みのファイル（4 チャンネルモードでは、ペアになったファイル）を再生すると、同じフォルダにあるファイルをすべて再生してから停止します。必要ならば、プレイモードを切り替えることで､この再生方法を変更できます。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。

2. PLAY MODE画面を呼び出します。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを繰り返し押して“PLAY MODE”にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。PLAY MODE画面が呼び出されます。



この画面では、次のプレイモードのうち、いずれか1つを選択できます。

● PLAY ALL（初期設定）
現在選ばれているファイル（4 チャンネルモードではペアになった2つのファイル。以下同様）を先頭に、同一フォルダにあるすべてのファイルを、名前の順に再生して停止します（優先される文字の順番は→P26）。

● PLAY ONE
現在選ばれているファイルを再生した後で停止します。

● REPEAT ALL
現在選ばれているファイルを先頭に、同一フォルダにあるすべてのファイルを、停止操作を行うまで名前の順に繰り返し再生します。

● REPEAT ONE
現在選ばれているファイルを、停止操作を行うまで繰り返し再生します。

3. プレイモードを選びます。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを繰り返し押して希望するモードにカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。変更箇所が確定し､メインメニュー画面に戻ります。

HINT

●（REC）キーの代わりにMENU（MENU）キーを押すと､変更箇所を破棄してメインメニュー画面に戻ります。

4. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返しMENU（MENU）キーを押してください。

A-Bリピート機能を利用する

A-Bリピート機能は、ファイル（4チャンネルモードではペアになった2つのファイル）内で2つのポイント（A／B）を指定し、その区間を繰り返し再生する機能です。この機能を利用するには、次のように操作します。

NOTE

レコーダーの動作中には、以下の設定が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。

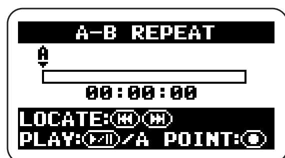
1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。

2. A-B REPEAT画面を呼び出します。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを繰り返し押して“AB REPEAT”にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。

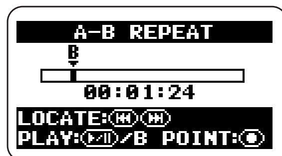
Aポイントを設定する画面に変わります。



3. Aポイントを設定します。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを使って、リピートを開始したい位置（Aポイント）までカウンターを進ませて、●（REC）キーを押してください。

Bポイントを設定する画面に変わります。



4. Bポイントを設定します。

同じ要領でリピートを終了したい位置（Bポイント）までカウンターを進ませて、●（REC）キーを押してください。

HINT

- A／Bポイントの設定は、再生中でも行えます。
- B ポイントを A ポイントより前の位置に設定することも可能です。その場合は、B→Aの区間を繰り返し再生します。

5. リピート再生を行います。

A／Bポイントの設定が終わったら、▶/II（PLAY/PAUSE）キーを押してください。A→B（またはB→A）の区間を繰り返し再生します。

6. リピート再生を解除します。

もう1回●（REC）キーを押すと、リピート再生が解除され、手順2の画面に戻ります。このとき、A／Bポイントの位置も消去されます。

7. トップ画面に戻ります。

トップ画面が表示されるまで、繰り返しMENU（MENU）キーを押してください。

ファイルを操作する

H2 で録音した内容は、SD カード上にファイル（4 チャンネルモードでは、ペアになった2つのファイル）として保存されます。ここでは、さまざまなファイルの操作方法について説明します。

ファイルとフォルダ

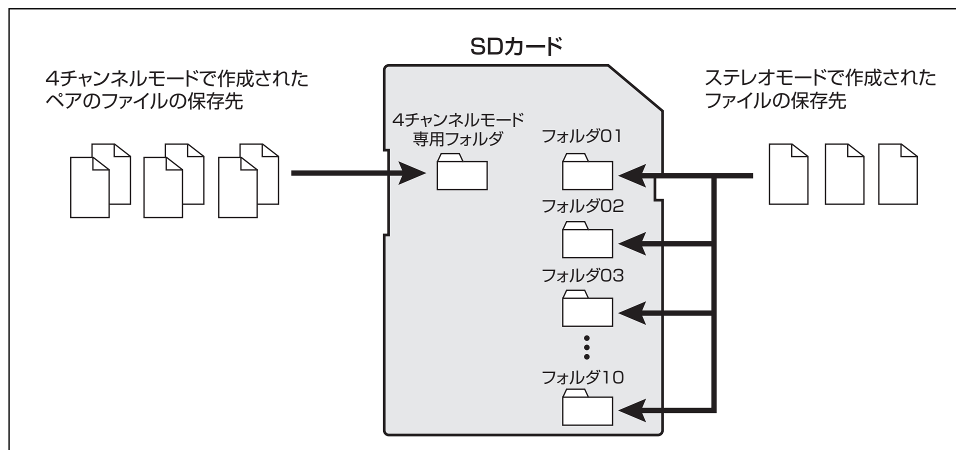
録音されたファイルの保存先は、H2の動作モードに応じて異なります。

H2が4チャンネルモードのとき、録音されたファイルは4チャンネルモード専用のフォルダに保存されます。このため、4チャンネルモードではフォルダを選択する必要はありません。

ステレオモードで録音したファイルは、現在選択されているフォルダ（01 〜10）に保存されます。また、再生するときは、現在選択されているフォルダ内のファイルが対象となります。

現在選ばれているフォルダ名は、ステレオモードのトップ画面に表示されます。





フォルダを選択する（ステレオモードのみ）

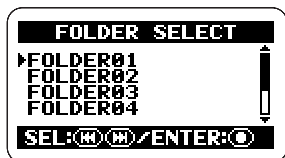
ステレオモードで録音／再生を行うフォルダを切り替えるには、次のように操作します。

1. ステレオモードのメインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードのトップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。

2. FOLDER SELECT画面を呼び出します。

(REW）／(FF）キーを繰り返し押して"FOLDER"にカーソルを合わせ、(REC）キーを押してください。



3. フォルダを選びます。

(REW）／(FF）キーを使って希望するフォルダにカーソルを合わせ、(REC）キーを押してください。

変更箇所が確定し、メインメニュー画面に戻ります。

4. トップ画面に戻ります。

ステレオモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返しMENU（MENU）キーを押してください。

操作するファイルを選ぶ

ファイルを操作するときは、最初に現在のフォルダの中から対象となるファイルを選択します。その操作方法は次の通りです。

NOTE

レコーダーの動作中には、以下の操作が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

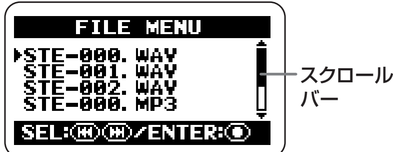
ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。

2. FILE MENU画面を呼び出します。

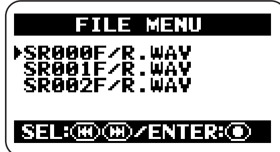
(REW）／(FF）キーを繰り返し押して"FILE"にカーソルを合わせ、(REC）キーを押してください。

現在のフォルダに含まれるファイル(4チャンネルモードでは、ペアになった2つのファイル。以下同様）のリストが表示されます。カーソルのあるファイルが、現在操作の対象として選ばれています。

ステレオモードのFILE MENU画面



4チャンネルモードのFILE MENU画面



HINT

・フォルダ内に５つ以上のファイルが含まれるときは、画面右側にカーソルの現在位置を示すスクロールバーが表示されます。
・４チャンネルモードでは "SRxxxF/R.WAV"（xxx＝000～499）という表示で、フロントのステレオWAVファイル（SRxxxF.WAV）とリアのステレオWAVファイル（SRxxxR.WAV）のペアを表します。

3. ファイルを選びます。

(REW)／(FF) キーを使って操作したいファイルにカーソルを合わせ、(REC) キーを押してください。
画面の最上段に現在選ばれているファイルの名前が表示されます。また、画面下部には選択可能なファイル操作の一覧が表示されます。

4. "SELECT" を選びます。

(REW)／(FF) キーを使って "SELECT" にカーソルを合わせ、(REC) キーを押してください。
そのファイルが選ばれた状態で、トップ画面に戻ります。

HINT

ファイルの選択は、ステレオモードのトップ画面（→P25）や4チャンネルモードのトップ画面（→P31）でも行えます。

ファイルの情報を見る

任意のファイルの各種情報（ファイル名、録音日付、ファイルフォーマット、サイズなど）を確認します。

NOTE

レコーダーの動作中には、以下の操作が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、(MENU) キーを押してください。

2. FILE MENU画面を呼び出します。

(REW)／(FF) キーを繰り返し押して "FILE" にカーソルを合わせ、(REC) キーを押してください。

3. 情報を調べたいファイルを選びます。

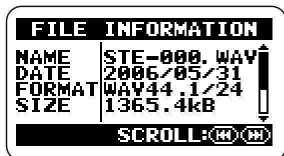
(REW)／(FF) キーを使って操作したいファイルにカーソルを合わせ、(REC) キーを押してください。
画面の最上段に現在選ばれているファイルの名前が表示され、選択可能なファイル操作の一覧が表示されます。

4. FILE INFORMATION画面を呼び出します。

(REW)／(FF) キーを使って "INFORMATION" にカーソルを合わせ、(REC) キーを押して、FILE INFORMATION 画面を呼び出してください。
この画面には、以下の各種情報が表示されます。隠れている部分の情報を見

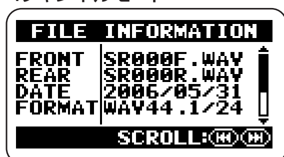
るには、⏮(REW)/⏭(FF)キーを使って画面をスクロールしてください。

ステレオモード



NAME	ファイル名(拡張子を含む)
DATE	録音日付
FORMAT	ファイルフォーマット/サンプリング周波数/量子化ビット数
SIZE	kB単位またはMB単位の容量
TIME	録音時間(時:分:秒)

4チャンネルモード



FRONT	フロントのステレオファイル名(拡張子を含む)
REAR	リアのステレオファイル名(拡張子を含む)
DATE	録音日付
FORMAT	ファイルフォーマット/サンプリング周波数/量子化ビット数
SIZE	kB単位またはMB単位の容量
TIME	録音時間(時:分:秒)

5. トップ画面に戻ります。

ステレオモード/4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返し MENU(MENU)キーを押してください。

ファイルに名前を付ける(ステレオモードのみ)

ステレオモードで録音されたファイルには、"STE-xxx.WAV(MP3)"(xxx = 000 ~ 999 の番号)という名前が自動的に付けられます。このファイル名は、以下の操作で変更できます。

NOTE

- レコーダーの動作中には、以下の操作が行えません。先に録音/再生を止めてから操作してください。
- 4チャンネルモードで録音されたファイルの名前は変更できません。

1. ステレオモードのメインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードのトップ画面で、MENU(MENU)キーを押してください。

2. FILE MENU画面を呼び出します。

⏮(REW)/⏭(FF)キーを繰り返し押して"FILE"にカーソルを合わせ、●(REC)キーを押してください。

3. 名前を変更したいファイルを選びます。

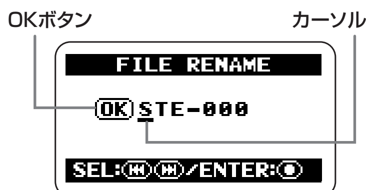
⏮(REW)/⏭(FF)キーを使って操作したいファイルにカーソルを合わせ、●(REC)キーを押してください。

画面の最上段に現在選ばれているファイルの名前が表示され、選択可能なファイル操作の一覧が表示されます。

4. FILE RENAME画面を呼び出します。

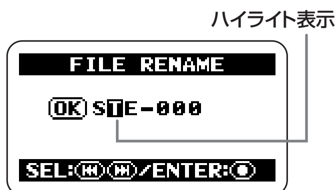
⏮(REW)/⏭(FF)キーを使って

“RENAME”にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。
画面が次のように変化します。この画面では、文字の下に表示されるアンダーラインがカーソルとして働きます。

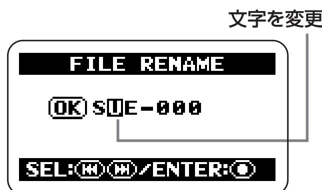


5. ファイル名の文字を編集します。

(REW)／(FF)キーを使って変更したい文字にカーソルを合わせて(REC)キーを押すと、その文字がハイライト表示されます。このハイライト表示は、その文字が編集可能になったことを示しています。



(REW)／(FF)キーを使って文字を変更し、(REC)キーを押します。



使用可能な文字は、次の通りです。

(スペース)!#$%&'()+,-0123456789
;=@
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXY
Z[ ] ^ _`
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{ }~

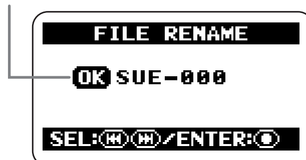
他の文字も、同じ要領で編集します。

HINT

拡張子(.WAVまたは.MP3)は変更できません。

6. ファイル名の編集が終わったら、変更を確定します。

(REW)キーを繰り返し押してOKボタンをハイライト表示させてください。



新しいファイル名を確定するには、(REC)キーを押してください。手順3の画面に戻ります。

HINT

(REC)キーの代わりに(MENU)キーを押すと、ファイル名の編集を中止して1つ手前の画面に戻ります。

7. トップ画面に戻ります。

ステレオモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返し(MENU)キーを押してください。

ファイルを削除する

H2で録音操作を行った場合、直前のファイルに上書きするのではなく、常に新規のファイルが作成されます。不要なファイルを削除するには、次のように操作してください。

NOTE

- 削除された録音ファイルは復活できません。この操作は慎重に行ってください。
- レコーダーの動作中には、以下の操作が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。

2. FILE MENU画面を呼び出します。

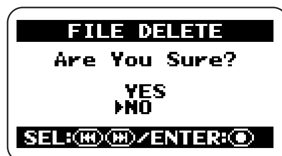
REW（REW）／FF（FF）キーを繰り返し押して“FILE”にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。

3. 削除したいファイルを選びます。

REW（REW）／FF（FF）キーを使って削除したいファイルにカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。
画面の最上段に現在選ばれているファイルの名前が表示され、選択可能なファイル操作の一覧が表示されます。

4. FILE DELETE画面を呼び出します。

REW（REW）／FF（FF）キーを使って“DELETE”にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。
画面が次のように変化します。



5. ファイルの削除を実行します。

REW（REW）／FF（FF）キーを使って“YES”にカーソルを合わせて●（REC）キーを押すと、ファイルが削除され、手順3の画面に戻ります。

HINT

●（REC）キーの代わりにMENU（MENU）キーを押すと、削除を中止して1つ手前の画面に戻ります。

6. トップ画面に戻ります。

ステレオモード／4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返しMENU(MENU)キーを押してください。

ファイルを分割する（ステレオモードのみ）

必要ならば、ファイルを任意の位置で２つに分割できます。例えば、ライブ演奏を連続録音した後で、曲ごとに分割したいときなどに使用します。

NOTE

レコーダーの動作中には、以下の操作が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

トップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。

2. FILE MENU画面を呼び出します。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを繰り返し押して"FILE"にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。

3. 分割したいファイルを選びます。

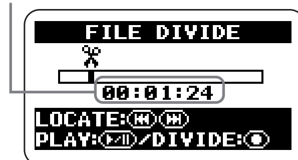
⏮（REW）／⏭（FF）キーを使って分割したいファイルにカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。

画面の最上段に現在選ばれているファイルの名前が表示され、選択可能なファイル操作の一覧が表示されます。

4. FILE DIVIDE画面を呼び出します。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを使って"DIVIDE"にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。

分割位置を指定するFILE DIVIDE画面に変わり、画面中央に現在位置が表示されます。

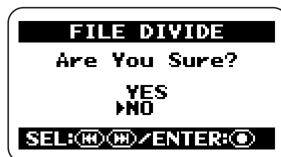


5. ファイルを分割したい位置まで進ませます。

FILE DIVIDE画面では、⏮（REW）／⏭（FF）キーを押すと、現在位置が1秒ずつ前後に移動します。▶/II（PLAY/PAUSE）キーを押すと、現在位置から再生／一時停止を行えます。これらのキーを使って、ファイルを分割したい位置まで進ませてください。

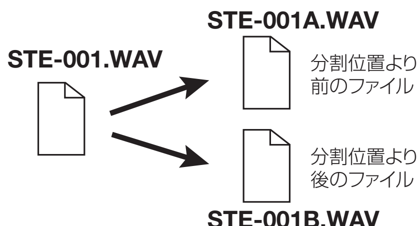
6. 分割を実行します。

分割位置が指定できたら、●（REC）キーを押してください。分割を確認する画面に変わります。



分割を実行するには、"YES"にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。

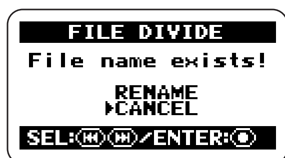
元のファイル名の最後にA（分割位置より前）とB（分割位置より後）を付けた新規ファイルが、現在選ばれているフォルダに作られます。



HINT

(REC)キーの代わりに(MENU)キーを押すと、分割はせずに1つずつ手前の画面に戻ります。

なお、同じフォルダ内に同じ名前のファイルがあった場合、ファイル名を変更するように促す画面が表示されます。



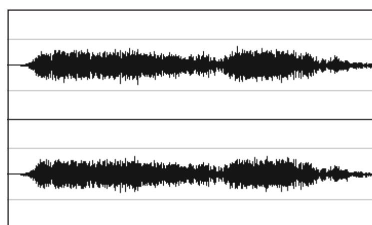
"RENAME" にカーソルを合わせて(REC)キーを押してファイル名を変更するか(→P50)、"CANCEL" にカーソルを合わせて(REC)キーを押し、分割操作を中止してください。

7. トップ画面に戻ります。

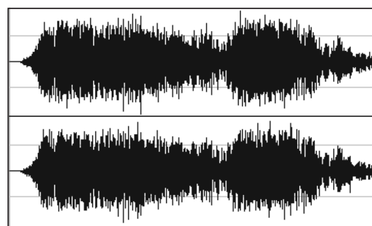
トップ画面が表示されるまで、繰り返し(MENU)キーを押してください。

ファイル全体のレベルを持ち上げる(ノーマライズ)

ノーマライズとは、ファイル内部の最大レベルが0dB(音が歪まない範囲の最大値)になるように、ファイル全体のレベルを底上げする機能です。録音済みファイルのレベルが低すぎたときに使うと便利です。



ノーマライズ



NOTE

レコーダーの動作中には、以下の操作が行えません。先に録音/再生を止めてから操作してください。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

トップ画面で、(MENU)キーを押してください。

2. FILE MENU画面を呼び出します。

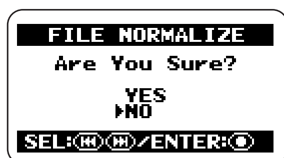
(REW)/(FF)キーを繰り返し押して"FILE"にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。

3. **レベルを持ち上げるファイルを選びます。**

(REW)／(FF)キーを使ってレベルを持ち上げたいファイルにカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。
画面の最上段に現在選ばれているファイルの名前が表示され､選択可能なファイル操作の一覧が表示されます。

4. **FILE NORMALIZE画面を呼び出します。**

(REW)／(FF)キーを使って"NORMALIZE"にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。
ノーマライズ処理を確認する画面に変わります。



ノーマライズを実行するには、"YES"にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。ノーマライズを実行した後で、手順3の画面に戻ります。

HINT

(REC)キーの代わりに(MENU)キーを押すと､実行はせずに1つ手前の画面に戻ります。

5. **トップ画面に戻ります。**

トップ画面が表示されるまで、繰り返し(MENU)キーを押してください。

WAVファイルをMP3ファイルに変換する (ステレオモードのみ)

ステレオモードで録音したWAVファイルを、MP3ファイルに変換することができます。MP3ファイルは、WAVファイルに比べてファイルサイズが数分の1～10分の1以下まで圧縮されるので､録音内容をインターネットで公開したり、メールに添付して送りたいときなどに便利です。

1. **ステレオモードのメインメニュー画面を呼び出します。**

ステレオモードのトップ画面で、(MENU)キーを押してください。

2. **FILE MENU画面を呼び出します。**

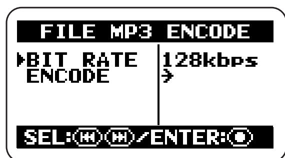
(REW)／(FF)キーを繰り返し押して"FILE"にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。

3. **MP3ファイルに変換するWAVファイルを選びます。**

(REW)／(FF)キーを使ってMP3ファイルに変換するWAVファイルにカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。
画面の最上段に現在選ばれているファイルの名前が表示され､選択可能なファイル操作の一覧が表示されます。

4. **FILE MP3 ENCODE画面を呼び出します。**

(REW)／(FF)キーを使って"MP3 ENCODE"にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。
画面が次のように変化します。



5. MP3のビットレートを選びます。

ビットレートとは、MP3 ファイルの 1 秒間あたりの情報量を表す数値です。この数値が大きいほど変換時のデータの圧縮率が低くなります。
その結果、ビットレートが大きいほど、高い周波数まで再生できるようになりますが、代わりにファイルサイズは大きくなります。また、ビットレートが小さいほど、ファイルサイズが小さくなる代わりに、再生できる上限の周波数が低くなります。

ビットレートを変更するには、"BIT RATE" にカーソルを合わせ、● (REC) キーを押してください。

希望するビットレートにカーソルを合わせ、● (REC) キーを押してください。ビットレートが確定し、1つ手前の画面に戻ります。

HINT

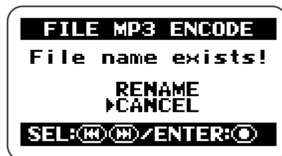
●(REC)キーの代わりに MENU (MENU)キーを押すと、ビットレートの変更はせずに1つ手前の画面に戻ります。

理論的には、ビットレートが128k bpsのときにFM放送クオリティ、256k bpsのときにCDクオリティの音質が得られます（それ以上ビットレートを上げても、音質にはあまり影響しません）。
ただし、実際の音質は音楽の内容や再生環境によっても左右されます。変換後のファイルを再生したり、ファイルサイズを確認したりしながら、最適なビットレートを探してみるといいでしょう。

6. MP3への変換を実行します。

MP3への変換を実行するには、"ENCODE" にカーソルを合わせ、● (REC)キーを押してください。元のファイルはそのままで、同じフォルダ内に "xxxxxxxx.MP3" (xxxxxxxx＝元のファイル名）というMP3ファイルが新規作成され、手順3の画面に戻ります。

なお、同じフォルダ内に同じ名前のMP3ファイルがあった場合、ファイル名を変更するように促す画面が表示されます。



"RENAME" にカーソルを合わせて● (REC)キーを押してファイル名を変更するか（→P50）、"CANCEL" にカーソルを合わせて●（REC）キーを押し、変換操作を中止してください。

7. トップ画面に戻ります。

ステレオモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返し MENU（MENU）キーを押してください。

4チャンネルのファイルをステレオファイルに変換する（4チャンネルモードのみ）

4 チャンネルモードで録音した2 つのステレオWAV ファイルを、1つのステレオWAVファイルに変換することができます。
この機能を使えば、4チャンネルモードで録音した素材の3Dパンを設定し、前後左右のバランスを整えた後で、パソコンに取り込んでオーディオCDに焼くことができます。

NOTE

- ステレオWAVファイルに変換する場合、量子化ビット数／サンプリング周波数は、オリジナルのファイルと共通となります。
- オーディオ CD を焼くには、通常 44.1kHz ／16bit のWAV ファイルが必要です。このため、4チャンネルモードで録音して、最後にオーディオCDに焼きたいときは、最初に録音モードとして44.1kHz／16bitを選択してください（→P35）。

1. 4チャンネルモードのメインメニュー画面を呼び出します。

4 チャンネルモードのトップ画面で、(MENU)（MENU）キーを押してください。

HINT

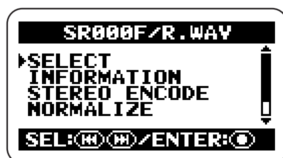
ステレオファイルへの変換を行うときに、3Dパンの設定を反映させることができます。必要ならば、3Dパンが適切に設定されていることをあらかじめ確認してください（→P32）。

2. FILE MENU画面を呼び出します。

(REW)（REW）／(FF)（FF）キーを繰り返し押して“FILE”にカーソルを合わせ、(REC)（REC）キーを押してください。

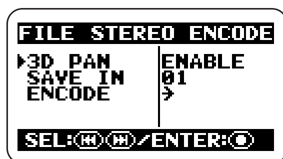
3. ステレオ WAV ファイルに変換するファイルのペアを選びます。

(REW)（REW）／(FF)（FF）キーを使ってステレオWAVファイルに変換するファイルのペアにカーソルを合わせ、(REC)（REC）キーを押してください。
画面の最上段に現在選ばれているファイルのペアの名前が表示され、選択可能なファイル操作の一覧が表示されます。



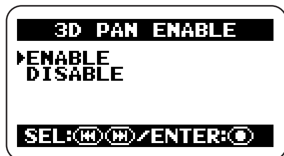
4. FILE STEREO ENCODE画面を呼び出します。

(REW)（REW）／(FF)（FF）キーを使って“STEREO ENCODE”にカーソルを合わせ、(REC)(REC)キーを押してください。
画面が次のように変化します。



5. 3Dパンの設定を変換後のステレオファイルに反映させるかどうかを選択します。

必要ならば、3Dパンの設定（前後左右の音量バランス）を変換後のステレオファイルに反映させることができます。
これを行うには、上記の画面の“3D PAN”にカーソルを合わせ、(REC)（REC）キーを押してください。画面が次のように変化します。



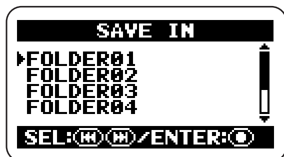
3Dパンの設定を反映させたいときは、"ENABLE"にカーソルを合わせ、●(REC)キーを押してください。変更が確定し、1つ手前の画面に戻ります。

HINT

- "DISABLE"に設定した場合は、3Dパンの設定が無効となり、2つのステレオファイルが1:1の比率でミックスされます。
- ●(REC)キーの代わりにMENU(MENU)キーを押すと、設定は変更せずに以前の画面に戻ります。

6. 保存先のフォルダを選びます。

必要ならば、保存先のフォルダを指定することができます。これを行うには、手順4の画面の"SAVE IN"にカーソルを合わせ、●(REC)キーを押してください。保存先のフォルダを選択する画面に変わります。



保存先のフォルダ(FOLDER 01～10)にカーソルを合わせ、●(REC)キーを押してください。変更が確定して以前の画面に戻ります。

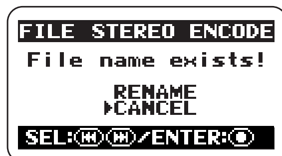
HINT

●(REC)キーの代わりにMENU(MENU)キーを押すと、設定は変更せずに以前の画面に戻ります。

7. ステレオファイルへの変換を実行します。

ステレオファイルへの変換を実行するには、"ENCODE"にカーソルを合わせ、●(REC)キーを押してください。指定したフォルダ内に"SRxxxFR.WAV"(xxx＝000～499)というWAVファイルが新規作成され、手順3の画面に戻ります。

なお、同じフォルダ内に同じ名前のWAVファイルがあった場合、ファイル名を変更するように促す画面が表示されます。



"RENAME"にカーソルを合わせて●(REC)キーを押してファイル名を変更するか(→P50)、"CANCEL"にカーソルを合わせて●(REC)キーを押し、変換操作を中止してください。

8. トップ画面に戻ります。

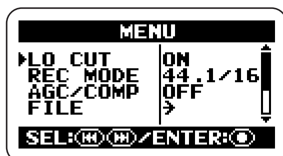
4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返しMENU(MENU)キーを押してください。

マークのリストを確認する

録音中に (PLAY/PAUSE) キーを押すと、ディスプレイに"MARKxx"(xx = 1〜99) と表示され、01 〜99 の番号を持つマークが作成されます。これらのマークは、BWFに対応したキューポイントとして利用できます (→P24)。
また、録音中に音飛びが発生した場合も、音飛びの発生した位置にマークが作成されます。これらのマークが記録された時刻 (時間：分：秒) を確認するには、次のように操作します。

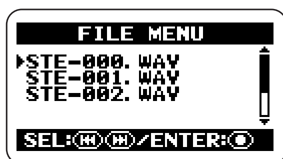
1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、 (MENU) キーを押してください。



2. FILE MENU画面を呼び出します。

 (REW) ／ (FF) キーを繰り返し押して"FILE"にカーソルを合わせ、 (REC) キーを押してください。

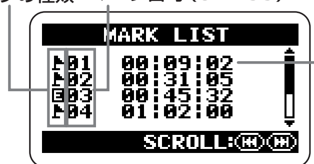


3. マークのリストを確認したいファイルを選択します。

 (REW) ／ (FF) キーを繰り返し押してマークのリストを確認したいファイルにカーソルを合わせ、 (REC) キーを押してください。
画面の最上段に現在選ばれているファイルの名前が表示され、選択可能なファイル操作の一覧が表示されます。

4. MARK LIST画面を呼び出します。

(REW)／(FF) キーを繰り返し押して"MARK LIST"にカーソルを合わせ、 (REC) キーを押してください。
MARK LIST画面が表示され、そのファイルに含まれるマークの一覧が確認できます。



通常のマークにはマークのアイコン ( )、音飛びエラーにより記録されたマークには"E"の文字が表示されます。画面に表示されていないマーク番号の情報を見るには、 (REW) ／ (FF) キーを使って画面をスクロールしてください。

NOTE

- この画面では、時刻の確認のみが行えます。マークの削除、およびマーク番号や時刻の変更はできません。
- マークが 99 個記録された状態で音飛びエラーが発生した場合は、"Data Write Error"と表示されるだけで、それ以上マークは追加されません。

5. トップ画面に戻ります。

トップ画面が表示されるまで、繰り返し (MENU) キーを押してください。

SDカードを操作する

ここでは、H2に挿入されたSDカードの操作方法について説明します。

カードの残り時間を見る

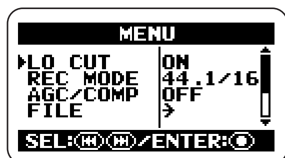
録音可能なSDカードの残量を、メガバイト単位または実時間で確認できます。残量は、現在選ばれている動作モード（ステレオまたは4チャンネル）、および録音モード(ファイルフォーマット、サンプリング周波数、量子化ビット数）に応じて変化します。

NOTE

レコーダーの動作中には、以下の操作が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

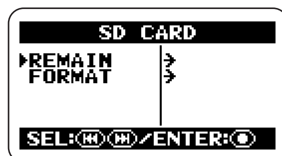
ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。



2. SD CARD画面を呼び出します。

（REW）／（FF）キーを繰り返し押して“SD CARD”にカーソルを合わせ、（REC）キーを押してください。

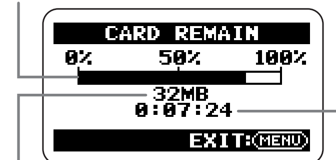
SDカードを操作するSD CARD画面が表示されます。



3. CARD REMAIN画面を呼び出します。

（REW）／（FF）キーを使って“REMAIN”にカーソルを合わせ、（REC）キーを押してください。

CARD REMAIN画面では、おおまかなカードの残量をバーグラフで表示します。また、メガバイト単位または実時間でも確認できます。



4. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返しMENU（MENU）キーを押してください。

カードを初期化する

市販のSDカードや、他のパソコンで初期化されたSDカードを使用する場合は、最初にH2で初期化する必要があります。
通常、このようなSDカードをH2に挿入した場合、H2を起動したときに初期化を促す画面が表示されるので、改めて初期化を行う必要はありません。しかし、SDカードが挿入されているのに“NO CARD”と表示される場合は、以下の操作で初期化を行ってください。

NOTE

- 初期化を行うと、それまで保存されていたデータがすべて消去され、復帰できなくなります。大事なデータを誤って消去してしまわないように、以下の操作は慎重に行ってください。
- レコーダーの動作中には、以下の操作が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、(MENU)キーを押してください。

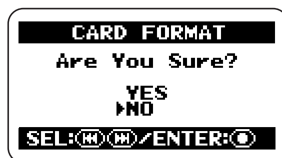
2. SD CARD画面を呼び出します。

(REW)／(FF)キーを繰り返し押して“SD CARD”にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。
SDカードを操作するSD CARD画面が表示されます。

3. CARD FORMAT画面を呼び出し、初期化を実行します。

(REW)／(FF)キーを使って“FORMAT”にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。

初期化を確認する画面が表示されます。



初期化を実行するには、“YES”にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。初期化を実行した後で、トップ画面に戻ります。

HINT

(REC)キーの代わりに(MENU)キーを押すと、初期化を中止して1つ手前の画面に戻ります。

SDカードの音飛びについて

動作モード／録音モードの組み合わせや、使用するSDカードの種類によっては、録音中にSDカードへのデータ転送が間に合わずに、音飛びした状態で録音されることがあります。
音飛びが生じた場合、録音中および録音終了時に“Data Write Error”と表示されます。

下の表は、動作モード／録音モードごとに、処理の重さを表したものです。処理が重いほど音飛びが生じやすくなります。音飛びが起きた場合は、録音モードをより軽いものに切り替えてから、録音をやり直してください。

	ステレオモード	4チャンネルモード
重い	WAV96kHz/24bit	WAV48kHz/24bit
↑		WAV44.1kHz/24bit
	WAV96kHz/16bit	WAV48kHz/16bit
		WAV44.1kHz/16bit
	WAV48kHz/24bit	
	WAV44.1kHz/24bit	
	WAV48kHz/16bit	
↓	WAV44.1kHz/16bit	
軽い	MP3	

HINT

録音中に音飛びが発生すると、その位置にマークが作成されます。必要ならば、これらのマークが記録された時刻（時間：分：秒）を確認できます（→P59）。

楽器をチューニングする

H2には、チューナー機能が内蔵されており、内蔵マイクや[EXT MIC IN]端子／[LINE IN]端子から入力される信号のチューニングが行えます。
チューナーモード（チューナーの方式）として、半音単位でピッチを自動検出するクロマチックチューナー、ギター／ベースの標準的なチューナー、ギターの変則チューニングが利用できます。

クロマチックチューナーを利用する

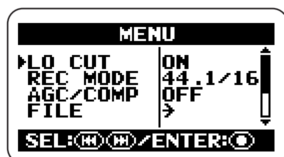
クロマチックチューナーは、入力された信号のピッチを半音単位で自動検出して、最寄りの音名とピッチのズレを表示します。すべての楽器のチューニングやボーカルのピッチの確認に利用できます。

NOTE

- レコーダーの動作中には、以下の操作が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。
- 以下の操作を行う前に、チューニングしたい楽器が入力ソースとして選ばれていることを確認してください。内蔵マイク経由でチューニングを行うときは、適切なマイクパターンが選ばれていることを確認してください。

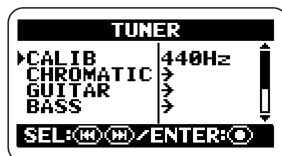
1. **メインメニュー画面を呼び出します。**

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。



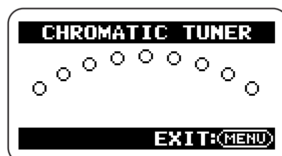
2. **TUNER画面を呼び出します。**

（REW）／（FF）キーを繰り返し押して“TUNER”にカーソルを合わせ、（REC）キーを押してください。チューナーの設定を行うTUNER画面が呼び出されます。



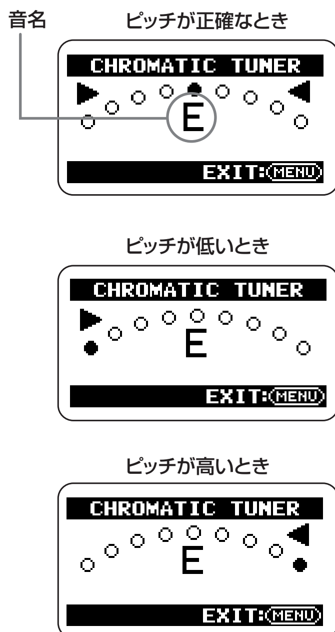
3. **CHROMATIC TUNER画面を呼び出します。**

“CHROMATIC”にカーソルを合わせ、（REC）キーを押してください。チューナーモードとして“CHROMATIC”（クロマチック）が選ばれ、画面が次のように変化します。



4. **チューニングを行います。**

チューニングしたい音を演奏すると、ピッチが半音単位で自動検出され、最寄りの音名（C、C#、D、D#、E…）と、基準ピッチに対するズレの幅が表示されます。



画面を見ながらピッチを調節してください。

NOTE

音を鳴らしても画面が反応しないときは、入力ソースの選択（→P18）、マイクパターンの選択（→P21）、入力感度／録音レベルの設定（→P23）が適切かどうかを確認してください。

5. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返し MENU（MENU）キーを押してください。

ギター／ベース専用チューナーを利用する

“CHROMATIC” 以外のチューナーモードを選べば、ギター／ベースに特化したチューニングが行えます。これらのチューナーモードでは、チューニングしたい弦の番号を指定して、1本ずつチューニングを行います。7弦ギターや5弦ベース、およびギターの変則チューニングにも対応しています。

NOTE

・レコーダーの動作中には、以下の操作が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。
・以下の操作を行う前に、チューニングしたい楽器が入力ソースとして選ばれていることを確認してください。内蔵マイク経由でチューニングを行うときは、適切なマイクパターンが選ばれていることを確認してください。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。

2. TUNER画面を呼び出します。

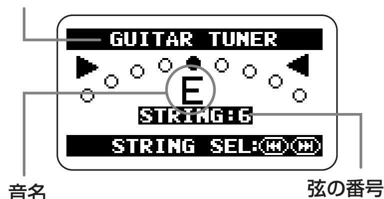
⏮（REW）／⏭（FF）キーを繰り返し押して “TUNER” にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。チューナーの設定を行うTUNER画面が呼び出されます。

3. 希望するチューナーモードを選びます。

“CHROMATIC” 以外のチューナーモードにカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。

“GUITAR”（ギターの標準チューニング）、“BASS”（ベースの標準チューニング、その他にギターの変則チューニングが選べます。
選択可能なチューナーモードと、各弦に対応する音名は、下の表の通りです。

“CHROMATIC”以外のチューナーモードでは、チューニングを行う弦の番号と、その弦の音名が表示されます。例えば“GUITAR”を選んだ場合、画面が次のように変化します。



4. チューニングを行います。

（REW）／（FF）キーを使って、チューニングを行う弦の番号を指定し（それにつれて音名表示も変わります）、その弦を開放弦で弾いてください。
画面にピッチのズレが表示されますので、画面を見ながらピッチを調節します。

残りの弦についても、同じようにピッチを調節してください。

5. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返し（MENU）キーを押してください。

チューナーモード		GUITAR	BASS	OPEN A	OPEN D	OPEN E	OPEN G	DADGAD
弦番号／音名	1	E	G	E	D	E	D	D
	2	B	D	C♯	A	B	B	A
	3	G	A	A	F♯	G♯	G	G
	4	D	E	E	D	E	D	D
	5	A	B	A	A	B	G	A
	6	E		E	D	E	D	D
	7	B						

チューナーの基準ピッチを変更する

H2が初期状態のとき、チューナーの基準ピッチは中央A＝440Hzに設定されています。この基準ピッチは中央A＝435〜445Hzの範囲を1Hz単位で調節できます。

NOTE

レコーダーの動作中には、以下の操作が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

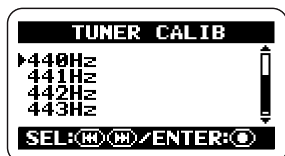
ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、（MENU）キーを押してください。

2. TUNER画面を呼び出します。

（REW）／（FF）キーを繰り返し押して“TUNER”にカーソルを合わせ、（REC）キーを押してください。チューナーの設定を行うTUNER画面が呼び出されます。

3. TUNER　CALIB画面を呼び出します。

“CALIB”にカーソルを合わせ、（REC）キーを押してください。基準ピッチを調節するTUNER CALIB画面が呼び出されます。



4. 基準ピッチを選択します。

（REW）／（FF）キーを使って、435（中央A＝435Hz）から445（中央A＝445Hz）の範囲で基準ピッチを選択し、（REC）キーを押してください。変更した値が確定し、TUNER画面に戻ります。

ここで設定した値は、すべてのファイル、すべての動作モードに共通です。この設定値は電源を切っても保持されます。

5. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返し（MENU）キーを押してください。

メトロノーム機能を使う

H2には、メトロノーム機能が内蔵されており、録音時のガイドリズムとして利用できます。録音中だけメトロノームを鳴らして再生時にはオフにしたり、録音を始める前に前カウントを鳴らしたりすることも可能です。

メトロノーム／前カウントのオン／オフを切り替える

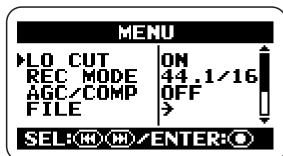
録音／再生中に鳴らすメトロノーム音や、録音前に鳴らす前カウントのオン／オフを切り替え、テンポを設定します。

NOTE

レコーダーの動作中には、メトロノーム／前カウントのオン／オフ操作が行えません。先に録音／再生を止めてから操作してください。

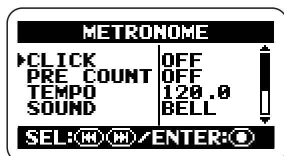
1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、(MENU) キーを押してください。



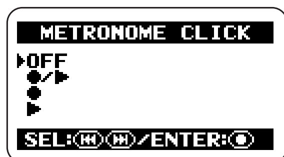
2. METRONOME画面を呼び出します。

(REW)／(FF) キーを繰り返し押して"METRONOME"にカーソルを合わせ、(REC) キーを押してください。メトロノームの設定を行うMETRONOME画面が呼び出されます。



3. メトロノームのオン／オフを切り替えます。

"CLICK"にカーソルを合わせ、(REC) キーを押して、METRONOME CLICK画面を呼び出してください。

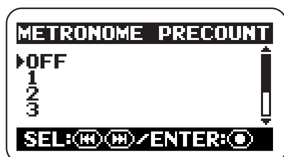


この画面では、メトロノームを鳴らす条件を"OFF"（常にオフ）、"●/▶"（録音または再生中にオン）、"●"（録音中のみオン）、"▶"（再生中のみオン）の中から選択します。
いずれかの項目にカーソルを合わせ、(REC) キーを押してください。変更箇所が確定し、METRONOME画面に戻ります。

4. 前カウントのオン／オフを切り替えます。

METRONOME画面で"PRECOUNT"にカーソルを合わせ、(REC) キー

を押して、METRONOME PRECOUNT画面を呼び出してください。



この画面では、録音の前に、前カウントを鳴らすかどうかを切り替えます。選択可能な項目は次の通りです。

● OFF
前カウントは鳴りません。

● 1〜8
指定された拍数の前カウントが鳴ります。

● SPECIAL
次のような特殊な前カウントが鳴ります。



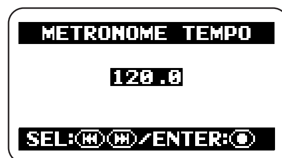
いずれかの項目にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。変更箇所が確定し、METRONOME画面に戻ります。

HINT

- メトロノームがオフのときでも、前カウントだけ鳴らすことができます。
- オートレコード機能、プリレコード機能がオンのとき、前カウントの設定は行えません。

5. メトロノームのテンポを設定します。

METRONOME画面で"TEMPO"にカーソルを合わせ、(REC)キーを押して、METRONOME TEMPO画面を呼び出してください。



この画面では、テンポの値を設定します。テンポの値は、40.0〜250.0(BPM)の範囲を0.1単位で設定できます。
(REW)/(FF)キーを使ってテンポの値を設定し、(REC)キーを押してください。変更箇所が確定し、METRONOME画面に戻ります。

HINT

- どの項目を設定する場合でも、(REC)キーの代わりに(MENU)キーを押すと、変更を破棄してMETRONOME画面に戻ります。
- 手順1の前に、再生を始めておくと、メトロノーム音を聴きながらテンポの設定が行えます。ただし、レコーダーの動作中は、メトロノームのオン/オフ操作が行えませんので、先にメトロノームをオンにしてからトップ画面に戻り、改めて操作してください。

6. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返し(MENU)キーを押してください。

用語解説

【BPM(Beat Per Minute)】
1分間当たりに演奏される4分音符の数で、テンポを表す数値。

メトロノーム／前カウントのオプションを利用する

メトロノーム／前カウントに使用するクリックの音色、強弱のパターン、音量レベルを設定します。

HINT

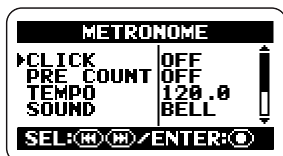
以下の操作を行う前に、再生を始めておくと、メトロノーム音を聴きながら音色／パターンの選択や音量レベルの設定が行えます。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、[MENU]（MENU）キーを押してください。

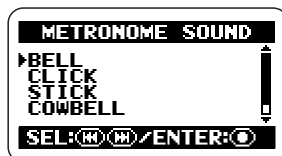
2. METRONOME画面を呼び出します。

[⏮]（REW）／[⏭]（FF）キーを繰り返し押して"METRONOME"にカーソルを合わせ、[●]（REC）キーを押してください。METRONOME 画面が呼び出されます。



3. メトロノーム／前カウントに使用する音色を選択します。

"SOUND"にカーソルを合わせ、[●]（REC）キーを押して、METRONOME SOUND 画面を呼び出してください。



この画面では、メトロノーム／前カウントのクリックに使用する音色を次の中から選択します。

● BELL
ベルとクリック音を組み合わせた通常のメトロノーム音

● CLICK
クリック音のみ

● STICK
スティックを叩く音

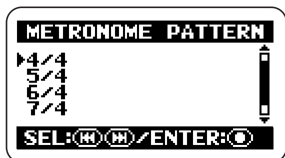
● COWBELL
カウベルの音色

● HI-Q
シンセのクリック音

いずれかの項目にカーソルを合わせ、[●]（REC）キーを押してください。変更箇所が確定し、METRONOME 画面に戻ります。

4. メトロノームの拍子（強弱のパターン）を選択します。

METRONOME 画面で"PATTERN"にカーソルを合わせ、[●]（REC）キーを押して、METRONOME PATTERN 画面を呼び出してください。



この画面では、メトロノームの拍子を、0/4〜8/4、6/8（0/4ではアクセントなし）の中から選択します。

いずれかの項目にカーソルを合わせ、(REC) キーを押してください。変更箇所が確定し、METRONOME画面に戻ります。

5. メトロノーム／前カウントの音量を設定します。

METRONOME画面で"LEVEL"にカーソルを合わせ、(REC) キーを押して、METRONOME LEVEL画面を呼び出してください。



この画面では、メトロノームの音量を0〜10の範囲で設定します。

(REW) ／ (FF) キーを使って音量を設定し、(REC) キーを押してください。変更箇所が確定し、METRONOME画面に戻ります。

HINT

どの設定を変更する場合でも、(REC) キーの代わりに (MENU) キーを押すと、変更を破棄してMETRONOME画面に戻ります。

6. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返し (MENU) キーを押してください。

H2をパソコンとつなぐ

H2の[USB]端子をパソコンに接続すれば、H2をパソコンのカードリーダーやオーディオインターフェースとして利用できます。
カードリーダーとして利用するときは、H2内部のSDカードをパソコンから操作できます。
また、オーディオインターフェースとして利用するときは、H2から入力される信号を直接パソコンに録音したり、パソコンからの信号をH2経由で再生できます。

カードリーダーとして利用する

H2の[USB]端子をパソコンに接続すれば、H2をカードリーダーとしてパソコンに認識させ、H2内部のSDカードをパソコンから操作できます。H2で録音した素材をパソコンに移して編集したり、オーディオCDを焼いたりするときに便利です。

H2のカードリーダー機能は、次の動作環境に対応しています。

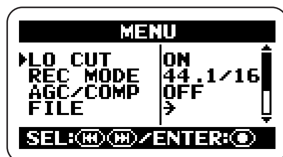
■ 対応OS
- Windows XP
- Windows Vista
- MacOS X（10.2以降）

1. H2とパソコンを接続します。

H2の[USB]端子(mini USB)とパソコンをUSBケーブルで接続してください。H2の電源をオフにしたままで[USB]端子をパソコンと接続すれば、USBバスパワーでH2を起動することも可能です。この場合は自動的に手順3のUSBメニューが表示されるため、手順2と3の操作は不要です。

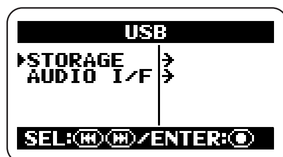
2. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で(MENU)（MENU）キーを押してください。



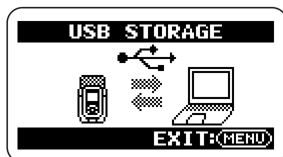
3. USB画面を呼び出します。

(REW)／(FF)キーを繰り返し押して"USB"にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。



4. パソコンにH2を認識させます。

パソコンにH2をカードリーダーとして認識させるには、"STORAGE"にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。
パソコンとH2がオンライン状態になり、画面が次のように変わります。



また、パソコンのデスクトップに、H2のSDカードが外部記憶装置として表示され、パソコン側から操作可能となります。

SDカードに含まれるフォルダの内容は次の通りです。

● SYS
H2の各種設定を記憶するファイルが格納されています。

● FOLDER01〜FOLDER10
ステレオモードで録音したオーディオファイルが保存されています。

● 4CH
4チャンネルモードで録音したオーディオファイルが保存されています。

NOTE
SYSフォルダの内容を入れ替えたり、削除したりすることは絶対にお止めください。H2が正常に起動できなくなります。

5. パソコンとH2との間で、オーディオファイルをやり取りします。

H2のオーディオファイルをパソコンに移すには、パソコンに表示されるH2のアイコンをダブルクリックして開き、FOLDER01〜FOLDER10フォルダ、4CHフォルダから目的のファイルをパソコンのハードディスクにドラッグ＆ドロップでコピーしてください。
また、パソコンからH2にオーディオファイルを移す場合は、FOLDER01〜FOLDER10フォルダ、4CHフォルダにオーディオファイルをドラッグ＆ドロップでコピーしてください。

NOTE
・パソコンからH2にオーディオファイルをコピーする場合、H2が対応するファイルフォーマット、サンプリング周波数、量子化ビット数のファイルであることを確認してください。これ以外のファイルをH2にコピーしても、再生することはできません。
・4CHフォルダのファイルは、録音時のファイル名を変更すると、認識できなくなります。4CHフォルダからパソコンにコピーしたファイルを元に戻すときは、ファイル名を変更しないでください。
・4チャンネルモードでは、常にフロント／リアの2つのステレオファイルを1組として扱います。パソコンに取り込んでトリミングなどの操作を行うときは、これら2つのファイルを同時に編集してください。

NOTE
・ファイル名に半角英数字以外を含むファイルはH2では動作対象外になります。
・市販のSDカードリーダー／ライターなどでファイル名を変更すると、H2で認識されなくなることがありますのでご注意ください。

6. H2とパソコンの接続を解除します。

接続を解除するときは、パソコン側でオンライン状態を解除してください。

● Windowsの場合
タスクトレイから"ハードウェアの安全な取り外し"を選び、取り外すデバイスとしてH2を選びます。

● Macintoshの場合
H2のアイコンを選び、ゴミ箱にドラッグ＆ドロップします。

7. トップ画面に戻します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返し[MENU]（MENU）キーを押してください。

NOTE

- USBバスパワーで起動している場合、手順4の画面より前の画面に戻ることはできません。トップ画面に戻るには、USBケーブルを抜いて電源を切り、H2の[POWER]スイッチをオンにして通常の方法で起動してください。
- パソコン側で接続を解除せずにMENU（MENU）キーを押すと、強制的に接続が解除され、パソコン側にエラーが表示されます。ファイルの破損を防ぐためにも、解除の操作は必ずパソコン側から行ってください。

オーディオインターフェースとして利用する

ここでは、H2をパソコンのオーディオインターフェースとして利用する方法について説明します。

オーディオインターフェース機能について

H2のオーディオインターフェース機能は、次の動作環境に対応しています。

■ **対応OS**

- Windows XP
- Windows Vista
- MacOS X（10.2以降）

■ **量子化ビット数**

16bit

■ **サンプリング周波数**

44.1kHz／48kHzから選択可能

H2をオーディオインターフェースとしてパソコンに認識させれば、H2の入力信号をパソコンに直接録音したり、パソコンの再生信号をH2の[PHONES/LINE OUT]端子から出力したりできます。
パソコンで録音／再生を行うには、別途に専用のソフトウェアが必要です。操作方法は、ソフトウェアの説明書をご参照ください。

用語解説

【オーディオインターフェース】
オーディオ信号をパソコンにデータとして取り込んだり、パソコンの音声データをオーディオ信号として外部に出力する機器。

【USBバスパワー】
USBケーブルを通じて、パソコン本体から接続した機器に電源を供給する仕組み。

HINT

- H2は、2チャンネルの入出力が可能なオーディオインターフェースとして認識されます。
- H2をオーディオインターフェースとして使用しているときも、ローカットフィルター、AGC／コンプレッサー／リミッター、チューナーなどの機能が利用できます。

接続前の準備

ここでは、H2をオーディオインターフェースとして利用するときに必要な設定について説明します。

1. H2の[USB] 端子とパソコンをUSBケーブルで接続してください。

H2の電源をオフにしたままで[USB]端子をパソコンと接続すれば、USBバスパワーでH2 を起動することも可能です。この場合は自動的に手順3 のUSBメニューが表示されるため、手順2 と3の操作は不要です。

2. メインメニュー画面を呼び出します。

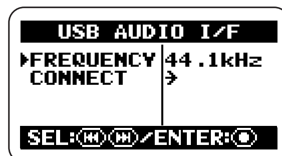
ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で MENU（MENU）キーを押してください。

3. USB画面を呼び出します。

(REW) ／ (FF) キーを繰り返し押して"USB"にカーソルを合わせ、 (REC) キーを押してください。

4. USB AUDIO I/F 画面を表示させます。

(REW) ／ (FF) キーを使って"AUDIO I/F"にカーソルを合わせ、(REC) キーを押してください。



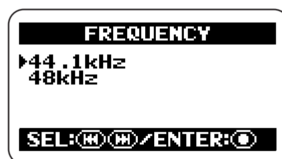
この画面では、次の設定や操作を行います。

● FREQUENCY
H2 をオーディオインターフェースとして動作させるときのサンプリング周波数を設定します。

● CONNECT
この項目にカーソルを合わせ、(REC)キーを押すと、H2がオーディオインターフェースとしてパソコンに認識されます。

5. サンプリング周波数を選択します。

サンプリング周波数を変更するには、"FREQUENCY"にカーソルを合わせ、(REC)キーを押して、FREQUENCY画面を表示させてください。



この画面で、(REW) ／ (FF) キーを使ってサンプリング周波数(44.1kHz／48kHz) を選び、(REC) キーを押すと、選択内容が確定して、USB AUDIO I/F 画面に戻ります。

HINT

(REC)キーの代わりに (MENU)キーを押すと、変更箇所を破棄して1つ手前の画面に戻ります。

NOTE

H2のサンプリング周波数は、パソコン側で設定したサンプリング周波数と必ず一致させてください。設定が異なる場合、パソコンとの通信が正常に行えません。

6. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返し（MENU）キーを押してください。

NOTE

USBバスパワーで起動している場合、手順4のAUDIO I/F画面より手前の画面には戻れません。この場合は、USBケーブルを抜いて電源を切り、H2の[POWER]スイッチをオンにして通常の方法で起動してください。

オーディオインターフェース機能を有効にする

H2をオーディオインターフェースとして利用するには、次のように操作します。

1. H2の[USB]端子とパソコンをUSBケーブルで接続してください。

H2の電源をオフにしたままで[USB]端子をパソコンと接続すれば、USBバスパワーでH2を起動することも可能です。この場合は手順2と3の操作は不要です。

2. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で（MENU）キーを押してください。

3. USB画面を呼び出します。

（REW）／（FF）キーを繰り返し押して“USB”にカーソルを合わせ、（REC）キーを押してください。

4. USB AUDIO I/F画面を表示させます。

（REW）／（FF）キーを押して“AUDIO I/F”にカーソルを合わせ、（REC）キーを押してください。

5. パソコンにH2を認識させます。

パソコンにH2を認識させるには、（REW）／（FF）キーを繰り返し押して“CONNECT”にカーソルを合わせ、（REC）キーを押します。ディスプレイにはUSB AUDIO I/F画面が表示されます。



この画面が表示されると、H2がオーディオインターフェースとしてパソコンに認識されます。画面中央のレベルメーターには、録音時は入力レベル、再生時には出力レベルが表示されます。

HINT

H2を通じてオーディオ信号の入出力を行うには、パソコン側でも適切なオーディオインターフェースを選択する必要があります。
詳しい操作は、パソコンで使用するソフトウェアの説明書をご参照ください。

6. **入力ソースの選択、入力感度／録音レベルの設定を行います。**

● 入力ソースの選択
入力ソースを選択するには、H2 のレコーダーを利用するときと同じように操作します（→P18）。ただし、内蔵マイクを使用する場合、SURROUND 4CH のマイクパターンは選択できません。

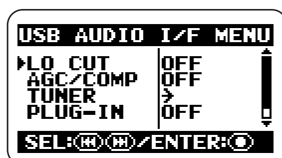
● 入力感度の設定
内蔵マイクまたは [EXT MIC IN] 端子に接続された外付けマイクを使用する場合は、[MIC GAIN]スイッチを使用して入力感度を設定します。操作方法は、H2 のレコーダーを利用するときと同じです（→P15）。

● 録音レベルの設定
上記の画面が表示されているときに、⏮（REW）／⏭（FF）キーを押して、録音レベルを設定します。操作方法は、H2 のレコーダーを利用するときと同じです（→P16）。



7. **USB AUDIO I/F MENU画面を表示させます。**

USB AUDIO I/F画面が表示されているときにMENU(MENU)キーを押すと、USB AUDIO I/F MENU画面が表示されます。なお、この 2 つの画面は MENU（MENU）キーを押すたびに切り替わります。



H2がオーディオインターフェースとして動作しているとき、USB AUDIO I/F MENU 画面では、以下の機能が利用できます。

● LO CUT
ローカットフィルターのオン／オフを切り替えます。操作方法は、H2 のレコーダーを利用するときと同じです（→P38）。

● AGC/COMP
AGC／コンプレッサー／リミッターの中から利用したい機能とその設定を選びます。操作方法は、H2 のレコーダーを利用するときと同じです（→P37）。

● TUNER
チューナーを使用します。操作方法は、H2 のレコーダーを利用するときと同じです（→P63）。

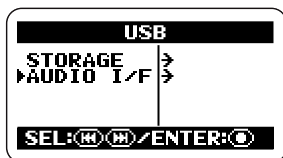
● PLUG-IN
プラグインパワーのオン／オフを切り替えます。操作方法は、H2 のレコーダーを利用するときと同じです（→P80）。

● INPUT
入力信号のオン／オフを切り替えます。これを行うには、“INPUT”にカーソルを合わせて●（REC）キーを押

し、表示された画面で"ON"または"OFF"にカーソルを合わせ、●(REC)キーを押します。INPUTをオフに切り替えると、入力信号が無効になり、パソコンからの出力のみが有効になります。

8. パソコンとの接続を解除します。

パソコンとの接続を解除するには、USB AUDIO I/F MENU画面でカーソルを"EXIT"に合わせ、●(REC)キーを押してください。
パソコンとの接続が解除されると、USB画面に戻ります。



HINT

USBバスパワーで起動している場合、カーソルを"EXIT"に合わせて●(REC)キーを押して接続を解除するときに、設定内容が保存されます。

9. トップ画面に戻します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、繰り返しMENU(MENU)キーを押してください。

NOTE

USBバスパワーで起動している場合、手順4のAUDIO I/F画面より手前の画面には戻れません。この場合は、USBケーブルを抜いて電源を切り、H2の[POWER]スイッチをオンにして通常の方法で起動してください。

その他の機能

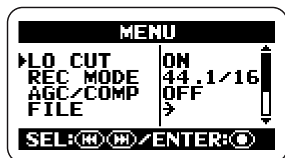
ここでは、H2のその他の機能について説明します。

日付／時刻を設定する

H2では､内蔵カレンダーの日付／時刻を設定できます。ここで設定したカレンダーを基準にして、録音するファイルに日付／時刻が記録されます。

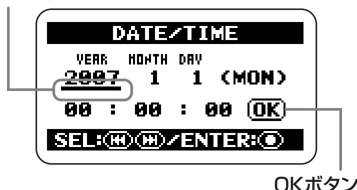
1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。



2. DATE/TIME画面を呼び出します。

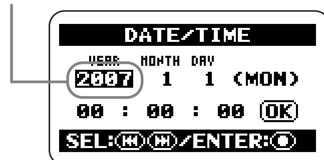
⏮（REW）／⏭（FF）キーを繰り返し押して“DATE/TIME”にカーソルを合わせ､●(REC)キーを押してください。



この画面では、数値の下に表示されるアンダーラインがカーソルとして働きます。

3. 日付／時刻を変更します。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを使って変更したい数値にカーソルを移動させ、●(REC)キーを押してください。カーソルのある数値がハイライト表示されます。この表示は、数値が変更可能であることを表しています。



⏮(REW)／⏭(FF)キーを使ってカーソル位置の数値を変更し、●（REC）キーを押して変更を確定してください。同じように他の数値も変更してください。

4. 日付／時刻の設定を確定します。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを使って、OK ボタンをハイライト表示させ、●（REC）キーを押してください。日付／時刻の設定が確定し、メインメニュー画面に戻ります。



5. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、(MENU)キーを繰り返し押してください。

NOTE

H2にACアダプターが接続されていないときに電池を抜き、1～2分放置しておくと、日付／時刻の設定がリセットされます。その後にH2の電源をオンにすると、リセットしたことを伝えるメッセージが表示されます。

モニター機能を利用する

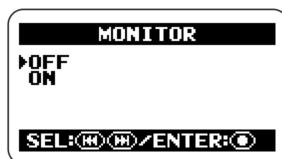
H2が初期状態のとき、入力信号のレベルをモニターするには、レコーダーを録音待機状態または録音状態にしなければなりません。しかし、必要ならば、レコーダーの状態にかかわらず常に入力信号をモニターできるように設定できます。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、(MENU)キーを押してください。

2. MONITOR画面を呼び出します。

(REW)／(FF)キーを繰り返し押して“MONITOR”にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。



この画面では、モニター機能のオン／オフ切り替えができます。選択可能な条件は、次の通りです。

● ON
入力信号を常にモニターすることが可能です。

● OFF
レコーダーが録音待機または録音状態以外のときには、入力信号のモニターを行いません。

3. 入力信号をモニターする条件を選びます。

⏮(REW)／⏭(FF)キーを繰り返し押して希望する条件を選び、●(REC)キーを押してください。選択内容が確定し、メインメニュー画面に戻ります。

HINT

●(REC)キーの代わりにMENU(MENU)キーを押すと、変更箇所を破棄して1つ手前の画面に戻ります。

4. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、MENU(MENU)キーを繰り返し押してください。

外部マイクに電源を供給する(ステレオモードのみ)

H2の[EXT MIC IN]端子にプラグインパワー対応マイクを接続するときは、H2から電源(DC2.5V)を供給できます。プラグインパワーのオン／オフを切り替えるには、次のように操作します。

NOTE

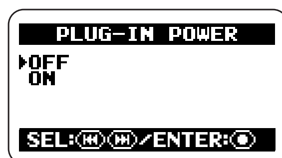
この操作はステレオモードでのみ行えます。

1. ステレオモードのメインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードのトップ画面で、MENU(MENU)キーを押してください。

2. PLUG-IN POWER画面を呼び出します。

⏮(REW)／⏭(FF)キーを繰り返し押して"PLUG-IN"にカーソルを合わせ、●(REC)キーを押してください。



3. プラグインパワーのオン／オフを切り替えます。

⏮(REW)／⏭(FF)キーを使って"ON"または"OFF"(初期設定値)を選び、●(REC)キーを押してください。オン／オフの切り替えが確定し、メインメニュー画面に戻ります。

HINT

(REC) キーの代わりに (MENU) キーを押すと、変更箇所を破棄して1つ手前の画面に戻ります。

4. トップ画面に戻ります。

ステレオモードのトップ画面が表示されるまで、(MENU) キーを繰り返し押してください。

ディスプレイのコントラストを調節する

ディスプレイのコントラストを調節するには、次のように操作します。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、(MENU) キーを押してください。

2. CONTRAST画面を呼び出します。

(REW) ／ (FF) キーを繰り返し押して"CONTRAST"にカーソルを合わせ、(REC) キーを押してください。コントラストの設定値 (1〜8) が表示されます。

3. コントラストを調節します。

(REW) ／ (FF) キーを使ってコントラストの値を変更し、(REC) キーを押してください。調節した値が確定し、メインメニュー画面に戻ります。

HINT

(REC) キーの代わりに (MENU) キーを押すと、変更箇所を破棄して1つ手前の画面に戻ります。

4. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、(MENU) キーを押してください。

バックライトのオン／オフを設定する

H2が初期状態のとき、最後にキーを操作してから15秒経つと、バックライトがオフになります。オフになるまでの時間を長くしたり、常時オンまたは常時オフに設定したりすることも可能です。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、MENU（MENU）キーを押してください。

2. LIGHT画面を呼び出します。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを繰り返し押して"LIGHT"にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。



この画面では、バックライトの動作を選択します。選択可能な項目は次の通りです。

● 15sec（初期設定）
最後にキーを操作してから15秒でオフになります。

● 30sec
最後にキーを操作してから30秒でオフになります。

● ON
常にバックライトが点灯します。

● OFF
バックライトは点灯しません。

3. バックライトの設定を行ないます。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを使ってバックライトの動作を選び、●（REC）キーを押してください。選択した項目が確定し、メインメニュー画面に戻ります。

HINT

●（REC）キーの代わりにMENU（MENU）キーを押すと、変更箇所を破棄して1つ手前の画面に戻ります。

4. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、MENU（MENU）キーを押してください。

電池の種類を指定する

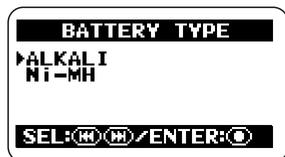
H2では、電池の残量がディスプレイに表示されます。この表示をより正確なものにするために、以下の方法でご使用になる電池の種類を指定してください。

1. メインメニュー画面を呼び出します。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面で、(MENU)キーを押してください。

2. BATTERY TYPE画面を呼び出します。

(REW)／(FF)キーを繰り返し押して"BATTERY"にカーソルを合わせ、(REC)キーを押してください。



選択可能な電池の種類は次の通りです。

- ALKALI（初期設定）
  アルカリ電池またはオキシライド電池を使用するときに選択します。

- Ni-MH
  充電して再利用するニッケル水素蓄電池を使用するときに選択します。

3. 電池の種類を選択します。

(REW)／(FF)キーを使って電池の種類を選び、(REC)キーを押してください。電池の種類が確定し、メインメニュー画面に戻ります。

HINT

(REC)キーの代わりに(MENU)キーを押すと、変更箇所を破棄して1つ手前の画面に戻ります。

4. トップ画面に戻ります。

ステレオモードまたは4チャンネルモードのトップ画面が表示されるまで、(MENU)キーを押してください。

キーホールド機能を設定する

H2では、録音中の誤操作などを防ぐために、ほとんどの操作子を一時的に無効にできます（キーホールド機能）。キーホールド機能を有効にするには、次のように操作します。

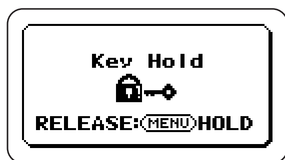
1. H2を再生または録音状態にします。

キーホールド機能を有効にすると、ほとんどの操作が行えなくなります。このため、キーホールド機能を解除するまで、この状態が維持されます。

2. キーホールド機能を有効にします。

MENU（MENU）キーを押し、ディスプレイに“Key Hold”と表示されるまで押し続けてください。

キーホールド機能を有効にすると、[POWER]スイッチ、[MIC GAIN]スイッチおよびMENU（MENU）キー以外のすべての操作子が無効となります。
キーホールド機能が有効な間は、いずれかのキーを押すとディスプレイが2秒間次のように変わります。



3. キーホールド機能を無効にします。

MENU（MENU）キーを押し、ディスプレイに“Released”と表示されるまで押し続けてください。

システムソフトウェアを更新する

SDカードとパソコンを使えば、お客様ご自身でH2のシステムソフトウェアをバージョンアップできます。バージョンアップを行うには、以下のように操作してください。

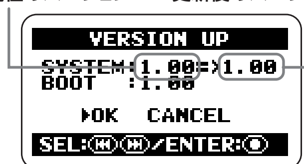
1. ズームのWebサイト（http://www.zoom.co.jp/）から最新のシステムソフトウェアをダウンロードします。

2. システムソフトウェアをパソコンからSDカードにコピーしてください。

パソコンとH2を接続する方法については「カードリーダーとして利用する」（→P71）をご参照ください。

3. VERSION UP画面を表示させます。

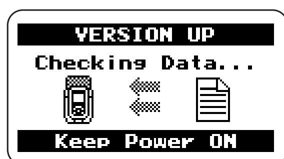
手順2のSDカードをH2に挿入し、▶/II（PLAY/PAUSE）キーを押しながらH2の電源を入れてください。
次のような画面が表示されます。



4. バージョンアップを実行します。

⏮（REW）／⏭（FF）キーを使ってカーソルをOKに合わせ、●（REC）キーを押してください。

ディスプレイが次のように変わり､バージョンアップが実行されます。



バージョンアップが終了すると“Complete!”と表示されます。電源を入れ直すと、新しいバージョンで起動します。

仕様

レコーダー

	ステレオモード	4CHモード
トラック	2	4
同時録音トラック	2	4
同時再生トラック	2	4

録音時間　4GB(SDHC)

約380分　(WAV44.1kHz/16bit ステレオトラック)

約68時間　(MP3 44.1kHz/128kbps ステレオトラック)

※録音時間は目安です。条件により多少短くなることがあります。

最大録音ファイルサイズ　2GB

ロケート　時/分/秒

Audioファイル編集

名前編集、削除、録音ファイルサイズ確認、録音日付確認、分割、
ノーマライズ

その他機能

MP3エンコード、A-Bリピート、ローカット、
AGC／コンプレッサー／リミッター、マーカー機能

チューナー

クロマチック、ギター、ベース、オープンA/D/E/G、DADGAD

メトロノーム

メトロノーム音源　5

変拍子　アクセントなし、1/4～8/4、6/8

テンポ　40.0～250.0BPM

A/D変換　24ビット

128倍オーバーサンプリング

D/A変換　24ビット

128倍オーバーサンプリング

記録メディア　SDカード(16MB～2GB)、SDHCカード(4GB)

データタイプ　フォーマット　WAV

<録音/再生>

量子化ビット数

16/24bit

サンプリング周波数

44.1kHz、48kHz、96kHz (ステレオモード)
44.1kHz、48kHz (4CHモード)

フォーマット　MP3 (ステレオモード)

<録音>

ビットレート　48、56、64、80、96、112、
128、160、192、224、256、
320kbps、VBR

サンプリング周波数　44.1kHz

		<再生>		
		ビットレート		32、40、48、56、64、80、96、112、128、160、192、224、256、320kbps、VBR
		サンプリング周波数		44.1kHz、48kHz
ディスプレイ	128×64ドット フルドットLCD(バックライト付)			
入力	LINE IN	ミニステレオフォーンジャック		
		入力インピーダンス		10kΩ
		入力レベル		−10dBm
	EXT MIC IN	ミニステレオフォーンジャック(プラグインパワー対応:2.5V)		
		入力インピーダンス		20kΩ
		入力レベル	L	−20dBm
			M	−30dBm
			H	−40dBm
	内蔵ステレオマイク			
		W-XYステレオマイク		
		MIC GAIN	L	+1.5dB
			M	+17dB
			H	+27dB
出力	PHONES/LINE OUT			
	ライン	出力負荷インピーダンス		10kΩ以上
		定格出力レベル		−10dBm
	フォン	15mW+15mW (負荷 32Ω時)		
USB	USB 2.0FULL speed マスストレージクラス動作、オーディオインターフェース動作 各USB機能はUSBバスパワーでの動作可能			
電源	ACアダプター DC9V、300mA (ズームAD-0006)			
	電池 単3乾電池 2本			
連続録音時間	4時間			
連続再生時間	4.5時間			
外形寸法	63.5(W)×110(D)×32(H)mm			
重量	110g			

*0dBm=0.775Vrms

故障かな？と思われる前に

H2の動作がおかしいと感じられたときは、まず次の項目を確認してください。

録音／再生のトラブル

◆ 音が出ない、もしくは非常に小さい

・モニターシステムの接続、およびモニターシステムの音量を確認してください。

・H2の音量が下がっていないか確認してください。

◆ 録音した音が聞こえない、もしくは非常に小さい

・内蔵マイクを使用している場合は、マイクを向ける方向とマイクパターンが適切かどうかを確認してください（→P21）。

・[MIC GAIN]スイッチの設定を確認してください（→P15）。

・録音レベルの設定が適切かどうかを確認してください（→P16）。

・[LINE IN]端子にCDプレーヤーなどを接続しているときは、接続した機器の出力レベルを上げてみてください。

◆ 内蔵マイク／外付けマイクが使用できない、マイクパターンが選択できない

・[EXT MIC IN]端子または[LINE IN]端子に機器が接続されている場合、内蔵マイクが無効となり、マイクパターンは選択できません。接続した機器をすべて外してください。

・[LINE IN]端子に機器が接続されている場合、[EXT MIC IN]端子が無効となります。

◆ 録音できない

・スロットに SD カードが挿入されていることを確認してください。

・ディスプレイに"Key Hold"と表示されるときは、キーホールド機能が有効になっています。キーホールド機能を無効にしてください（→P84）。

◆ 4チャンネルモードで再生したときの音量バランスがおかしい

・3Dパンの設定を確認し、必要ならば設定をリセットしてください(→P32)。

その他のトラブル

◆ USB端子をパソコンに接続しても認識されない

・対応 OS が適切かどうかを確認してください（→P71）。

・H2をパソコンに認識させるためには、H2側で接続操作を行う必要があります(→P71)。

エラーメッセージ一覧表

カード関連のメッセージ	原因	対処法
No Card	SDカードが装着されていない	SDカードを装着し電源を入れ直してください
No File	操作対象となる有効なファイルがない	
Card Format Error!	SDカードのフォーマットに失敗した / カードが正常に認識できない	※
Card Full!	録音時などにカードの容量がいっぱいになった	
File name exists!	ファイル名を変更しようとした時、同一の名前のファイルが既に存在していた	別のファイル名に変更してください
Stop Recorder!	再生・録音動作中には入れないメニューに入ろうとした	レコーダーをストップしてから操作してください
Card Protected	SDカードがライトプロテクトされています	SDカードのライトプロテクトスイッチを解除してください
Format Card?	フォーマットが不正なSDカードが装着されている	この画面で“YES”を選択しRECキーを押すと、データを消去し再初期化をおこないます
Now Recording!	録音動作中、録音待機中に入れないメニューに入ろうとした	録音を停止してから操作してください
File Create Error!	録音を開始しようとしてファイル作成に失敗した	※
Card Error!	カードエラーが発生した	※
File Protected	ファイルメニューの操作で、読み取り専用のファイルに書き込もうとした	PCなどでファイルの読み取り専用属性を外してください
File Rename Error!	ファイル名変更の際に、空白のファイル名など不正なファイル名が指定された	使えない文字を削除してください
Card Write Error	録音以外のカード書込み時のエラーメッセージ	※
Card Read Error!	ファイル読み込み時に発生したエラーのメッセージ	※
Data Write Error	SDカードへのデータ転送が間に合わず、録音結果が音飛びしてしまった	録音モードのサンプリング周波数を下げるかビット長を小さくしてください

※カード関連のエラーメッセージが頻発する場合は、カードの不良が考えられます。

その他のメッセージ	原因	対処法
RESET DATE/TIME	内蔵のカレンダー時計が電池切れのためリセットされた	内蔵カレンダー時計の日時を合わせてください カレンダー時計の動作には電池が必要です
Low Battery!	電池電圧が低下している	新しい電池に交換してください
Please Power Off	電源OFF処理が終了した	電源SWをOFFしてください
Please pull out external input	外付けマイク／外部機器が接続されているときは、マイクパターンが選択できない	[EXT MIC IN]端子／[LINE IN]端子から外付けマイク／外部機器を取り外してください
Only Built-in MIC is active	4チャンネルモードでは、内蔵マイクのみが有効なのに、外付けマイク／外部機器が接続されている	[EXT MIC IN]端子／[LINE IN]端子から外付けマイク／外部機器を取り外してください
Invalid File!	不正なファイルを操作しようとした	正しいファイルを使用してください

索引

【た行】

【な行】

【は行】

【ま行】

【ら行】



株式会社ズーム

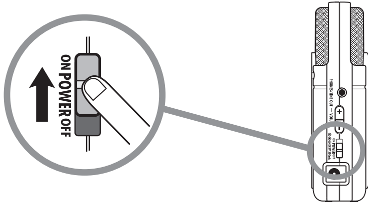
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-11-2　イトーピア岩本町二丁目ビル2階

ホームページ　http://www.zoom.co.jp

H2 - 5010-2

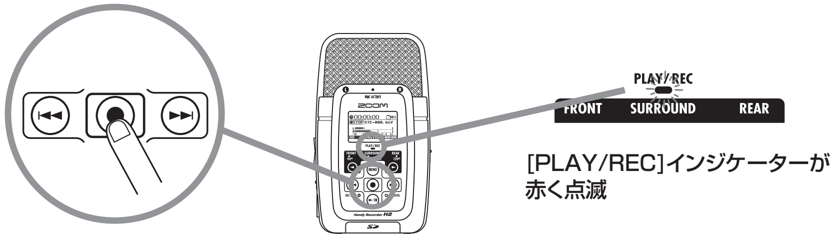
ZOOM H2 カンタン録音ガイド

1 H2の電源を入れましょう



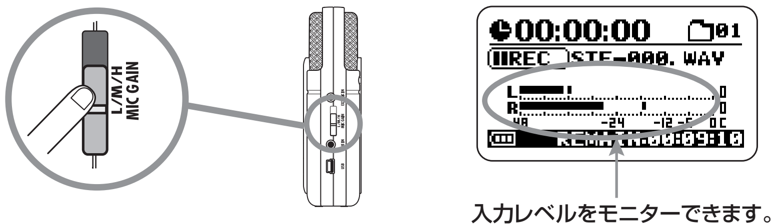
[POWER]スイッチをONにします。

2 (REC)キーを押してH2を録音待機状態にします



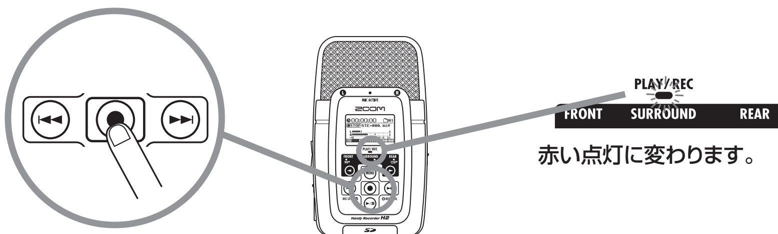
[PLAY/REC]インジケーターが
赤く点滅

3 [MIC GAIN]スイッチで入力感度を調節します



入力レベルをモニターできます。

4 もう一度 (REC)キーを押し、録音を開始します



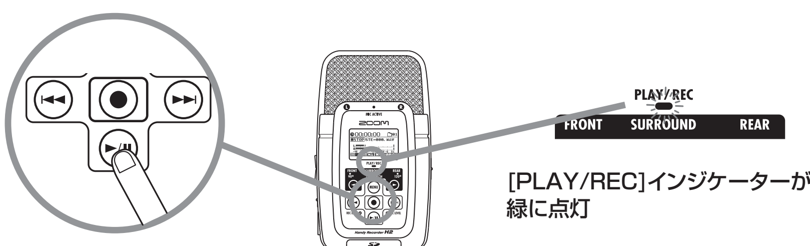
赤い点灯に変わります。

5 (REC)キーを押し、録音を停止します



録音ファイル先頭に戻ります。

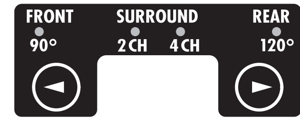
6 (PLAY/PAUSE)キーを押し、録音したファイルを再生します



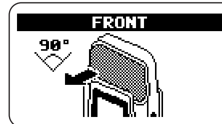
[PLAY/REC]インジケーターが
緑に点灯

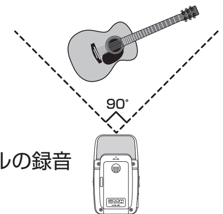
内蔵マイクパターン選択のヒント!

録音したい対象やシチュエーションによってマイクパターンを切り替えると効果的です。



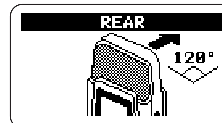
FRONT 90

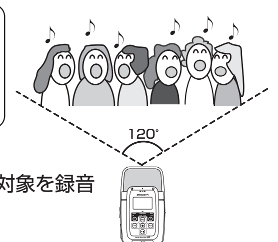




楽器単体やソロボーカルの録音

REAR 120

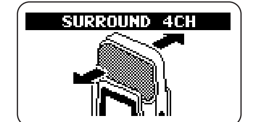


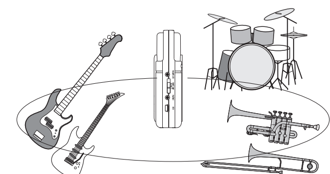


空気感も含めて広い対象を録音

SURROUND







H2の前後の音を同時に収音
バンドリハーサルの録音など

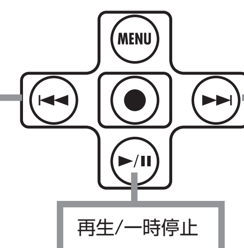
野外での録音時は風防を装着しましょう



風によるマイクの吹かれ雑音を
軽減できます。

ファイルの先頭、
または1つ前の
ファイルを選択

押し続けると
巻き戻し



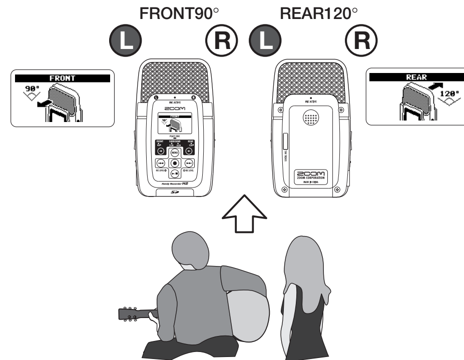
次のファイルを
選択
押し続けると
早送り

再生/一時停止

Handy Recorder H2 録音時の左右の位置について

H2が初期状態のとき、ステレオ／サラウンド録音を行うと、H2に向かって演奏するユーザーから見た左右の位置を基準にして、定位が設定されます。このため、H2をユーザーとは逆の位置にある音源に向けて録音するときは、ユーザーから見た左右の位置と、録音内容を再生するときの左右の位置が逆転します。

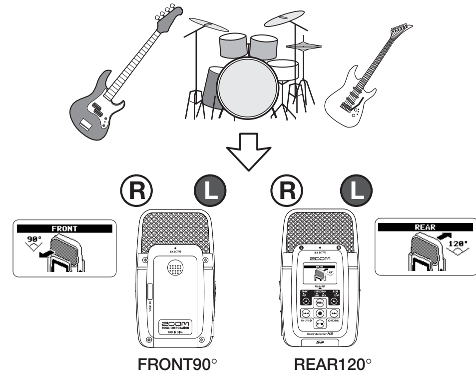
H2をユーザー自身に向けて録音するとき



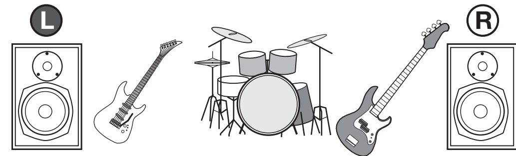
ユーザーの位置から見た左右の定位と、録音内容を再生するときの左右の定位が一致します。



H2をユーザーとは逆の位置にある音源に向けて録音するとき



ユーザーの位置から見た左右の定位と、録音内容を再生するときの左右の定位が逆転します。



必要ならば、上記の定位を左右逆にすることも可能です（Ver　1.10以降）。これを行うには、録音前に次のように操作してください。

① MENU（MENU）キーを押した後で "L/R POSI" にカーソルを合わせ、●（REC）キーを押してください。

② ◀◀（REW）／▶▶（FF）キーを使って、設定を "PLAYER"（プレーヤーの位置から見た定位に合わせる）から "LISTENER"（聴衆の位置から見た定位に合わせる）に変更し、●（REC）キーを押してください。

※上記設定はSDカードに保存されます。また、この機能は内蔵マイクにのみ有効です。